

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	哲学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>物事の根本原理についての価値・見方・考え方を理解し、生命の尊厳、人間尊重、倫理観に基づいた行動や思考ができる基礎を養う</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>レポート及び筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>はじめて出会う生命倫理 有斐閣</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	哲学と倫理学・生命倫理の歴史と日本への導入			講義
2	2	出生前診断がもたらす問い			講義
3	2	生殖補助技術が問いかける問題と再生医療をめぐる倫理問題(1)			講義
4	2	再生医療をめぐる倫理問題(2)とエンハースメントと新優生学			講義
5	2	診療と研究参加のインフォームドコンセント			講義
6	2	ホスピス、緩和ケアと現代の死生観と介護される者の自己決定			講義
7	2	安楽死、尊厳死の是非と脳神経倫理学			講義
8	1	まとめと試験問題			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	論理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 論理的道筋に沿った思考の形成及び構造を理解し、表現法、文章の書き方、論理的思考法を身につける					
<<成績評価の方法>> レポート					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献提示					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	論理的思考			講義
2	2	資料の批判的読解			講義
3	2	数量表現の扱い			講義
4	2	数量表現の帰結			講義
5	2	数量表現と広告			講義
6	2	広告の表現			講義
7	2	データの適正な扱い			講義
8	2	相関			講義
9	2	相関と因果			講義
10	2	誇大な表現			講義
11	2	確率の伝達			講義
12	2	データと確率			講義
13	2	論説文の読みとり			講義
14	2	論理的表現の作成			講義
15	2	論理的表現の読解			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	情報科学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>情報と情報処理の基本的な考え方や方法を理解し、看護実践や看護研究に生かせるための情報収集と整理・活用方法を習得する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>課題提出及び筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>随時参考文献提示</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>視聴覚室で授業を行う。各自 USB(2 ギガ程度)を持参すること。プロジェクター準備</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	基本操作 キーボードとマウス、日本語入力、強制終了			講義・演習
2	2	レイアウト機能とコンピューターウイルス			講義・演習
3	2	SNS 講習、情報リテラシーとコンピューターリテラシー			講義・演習
4	2	タイトルロゴとテキストボックス			講義・演習
5	2	図形描写と段組み、ヘッダーとフッター			講義・演習
6	2	パワーポイントとアニメーション			講義・演習
7	2	パワーポイントのテクニックと文献検索			講義・演習
8	2	エクセルグラフ			講義・演習
9	2	相対、参照、絶対参照			講義・演習
10	2	基本的な関数と電子カルテ			講義・演習
11	2	If と Lookup			講義・演習
12	2	串刺し算、パソコンの基本的構造			講義・演習
13	2	データベース			講義・演習
14	2	統計の基本			講義・演習
15	2	まとめと実技テスト			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	教育学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>教育の本質・意義・機能を学び、人間の成長・発達と学習との関連性を学ぶと同時に、人に教えるという意味について理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、平常点</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>〈学級〉の歴史学 講談社</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	人間の成長、発達と教育の意義①			講義
2	2	人間の成長、発達と教育の意義②			講義
3	2	人間の成長、発達と教育の意義③			講義
4	2	人間の成長発達と環境の影響①			講義
5	2	人間の成長発達と環境の影響②			講義
6	2	意図的な人間形成作用としての教育①			講義
7	2	意図的な人間形成作用としての教育②			講義
8	2	人間を形成する緒力の中での教育の位置①			講義
9	2	人間を形成する緒力の中での教育の位置②			講義
10	2	学校教育の制度①			講義
11	2	学校教育の制度②			講義
12	2	学習指導			講義
13	2	生活指導			講義
14	2	教育評価			講義
15	2	看護と教育			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	国文学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 日本語の「ことば」の意味を思考し、論述やストーリーの中から、登場人物の関係性や生き方、気持ち、感情の変化などを把握する論理性と感性を養う					
<<成績評価の方法>> レポート及び筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献提示					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	グリム童話「灰かぶり」			講義
2	2	芥川龍之介の妻と手紙			講義
3	2	芥川龍之介の妻と手紙、 偉人調べの日程決め等			講義
4	2	ハンセン病の歴史と文字①			講義
5	2	ハンセン病の歴史と文字②			講義
6	2	ハンセン病の歴史と文字③			講義
7	2	伝記調べ発表①、北条民雄「いのちの初夜」①			講義
8	2	伝記調べ発表②			講義
9	2	伝記調べ発表③、小泉八雲「耳なし芳一」			講義
10	2	北条民雄「いのちの初夜」②			講義
11	2	小泉八雲「人形の墓」			講義
12	2	堀辰雄「風立ちぬ」			講義
13	2	結核の文学史・文化史①			講義
14	2	結核の文学史・文化史②			講義
15	2	結核の文学史・文化史③			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	社会学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 社会的存在「である人間を理解するとともに、地域社会での生活システムの中で生活している人間を理解する					
<<成績評価の方法>> レポート					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	I. 明治民法の家族法 明治民法の家族制度と女性 明治民法			講義
2	2	I. 明治民法の家族法 明治民法の家制度と女性 法律適用の男女差			講義
3	2	I. 明治民法の家族法 新しい女性の登場と家族法			講義
4	2	I. 明治民法の家族法 戦後改革と家族法			講義
5	2	II. 現代社会における家族 家族とは、家族の変容、前近代家族			講義
6	2	II. 現代社会における家族 家族の変容、近代家族、現代家族			講義
7	2	III. 結婚 結婚とは、変化する結婚			講義
8	2	III. 結婚 法律婚と非法律婚、夫婦別性選択制			講義
9	2	III. 結婚 夫婦同氏と戸籍 IV. 離婚 実離婚の実態			講義
10	2	IV. 離婚 離婚の法制度			講義
11	2	IV. 離婚 判例変更			講義
12	2	プレゼンテーション			
13	2	プレゼンテーション			
14	2	プレゼンテーション			
15	2	プレゼンテーション			

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	生物と環境	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 生物としての人間が環境を離れては存在しえないことを理解し、環境保全への努力が心身のトータルな健康的な生活へ至る重要項であることを学ぶ					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献提示					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	環境指標生物の定義及び理解するために必要な概念について			講義
2	2	環境指標生物(タンポポ等)について生態学的知見を交えて			講義
3	2	大気汚染の指標となる環境指標生物—生態学的知見を交えて			講義
4	2	水質汚濁の指標生物について—生態学的知見を加えながら			講義
5	2	環境指標生物の総括			講義
6	2	環境指標生物が進歩した理由としての日本の公害問題について			講義
7	2	生物多様性の意味と生態系の多様性と種の多様性について			講義
8	2	生物多様性のなかの種の多様性と遺伝子の多様性について			講義
9	2	生物多様性条約など生物多様性保全の人間社会における展開			講義
10	2	生物多様性の主流化と日本の生物多様性の4つの危機			講義
11	2	生態系の構造と機能、生物濃縮化現象について			講義
12	2	環境ホルモン問題、生態系における水の循環について			講義
13	2	生態系における炭素、窒素の循環と地球温暖化について			講義
14	2	世界の動物地理区と大陸移動説について			講義
15	2	外来生物について			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人間関係論	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	3 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 実習を振り返り、私が私であること、私があなたと関わること、の意味を考えながら看護師としての対人関係能力を高める。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ことばが劈かれるとき ちくま文庫					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	体験学習について 自ら行動し体験から学ぶ			講義
2	2	自己紹介 話すこと 聴くこと			講義
3	2	「話す」「聴く」グループワーク			講義
4	2	「からだ」への気づき 呼吸 並ぶ(生き物としてのからだ)			講義
5	2	「聴く」「話す」振り返り			講義
6	2	IDC 実習 自己開示 自己理解			演習
7	2	上半身のゆらし			演習
8	2	上半身のゆらし ロールプレイについて			講義
9	2	前回のふりかえり「ことば」について			講義
10	2	ロールプレイ			演習
11	2	上半身のゆらし			演習
12	2	「呼びかけ」のレッスン			講義
13	2	「スーパービジョン」ロールプレイを振り返って			講義
14	2	「スーパービジョン」ロールプレイを振り返って			講義
15	2	論述試験			

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	心理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員 :		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
<<科目目標>> 人間の心理を理解するために必要な基礎的な事項について学ぶ					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ストレス社会とメンタルヘルス 樹村房					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	心理学とは①(動機は何か)			講義
2	2	心理学とは②(看護の心)			講義
3	2	人間理解とは			講義
4	2	感覚、知覚の心理			講義
5	2	記憶の心理			講義
6	2	感情・動機の心理、知能の心理			講義
7	2	性格、知能の心理①(理論)			講義
8	2	性格、知能の心理② (心理検査、性格検査)			講義
9	2	現代社会とストレス、感情、情緒など			講義
10	2	現代社会とストレス：日常的ストレス、中間確認テスト			講義
11	2	現代社会とストレス：ストレス反応、ストレスチェック			講義
12	2	発達心理			講義
13	2	社会心理			講義
14	2	カウンセリング			講義
15	2	まとめ、試験			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	スポーツ科学 I	科目区分	基礎分野	授業の方法	実技
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> スポーツを通して、心身のバランスをとり、自己の健康・体力を保持増進する					
<<成績評価の方法>> 実技試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献提示					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>> 運動ができる服装：トレーニングウェア、室内運動靴 髪は縛るかまとめること 体育館に授業を行う					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	実技ガイダンス 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
2	2	実技 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
3	2	実技 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
4	2	実技 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
5	2	実技 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
6	2	実技 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
7	2	実技 卓球・バドミントン・バレーボール			実技
8	1	実技 バドミントン・バレーボール			実技

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>身体運動と健康のかかわりを科学的に理解し、生活に対応する運動のあり方を身につける。「体力について」「体力を測定評価」という2点に着目して授業をすすめる。健康・まず、体力とは何かについて理解することを目的とする。そして、今の自分の体力を測定するとともに自他と比較してどうなのか正しく比較・検討できること(測定→集計→評価)を目的とする。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>定期試験の点数 80%と授業内の活動点(レポート) 20%で評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書は指定せず、授業内で配布するプリントで授業をすすめる。 参考書(購入義務なし) 『スポーツ測定評価学—からだの形と働きを測る』(文化書房博文社) 『新体力テスト—有意義な活用のために』(ぎょうせい)</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業内で説明する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業内での演習や作業があるのでできるだけ全出席を目指してください。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	体力と健康の概念～健康とは何か？体力とは何か？～			講義
2	2	新体力テストを実施			演習
3	2	新体力テストの結果分析			講義
4	2	持久系運動能力の評価① (vo2max、酸素摂取量、RMR、基礎代謝量)			講義
5	2	持久系運動能力の評価② (Met、Ex)			講義
6	2	持久系運動能力の評価 (計算問題)			演習
7	2	測定実習 (歩行・走行パフォーマンスの計測)			演習
8	1	まとめ、復習			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	英語 I	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 日常生活及び看護の場面に必要な英語の会話力を身につける					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ホスピタルイングリッシュ Vital Signs (改訂版) 南雲堂					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	自己紹介、ネームカードの作成			講義
2	2	Unit 1 Listening Translation Reading practice Role play			講義
3	2	Unit 1 III Look at this, IV controlled practice V Substitution			講義
4	2	Unit 1 QuizNo2 Useful Expressions VI:Do you know?			講義
5	2	Unit 1 QuizNo3、Unit 2 Listening, Translation, Reading practice			講義
6	2	Unit 2 QuizNo4, Role play III Look at this, IV controlled practiceA			講義
7	2	Unit 2 QuizNo5、controlled practice、VIDo you know?			講義
8	2	Unit 3 QuizNo6、Role play II Check your understanding			講義
9	2	Unit 3 QuizNo7、Listening&sing, A whold new world			講義
10	2	Unit 3 IVcontrolled practiceA、B VDo you know?			講義
11	2	Unit 4 QuizNo8、Listening Translation Reading practice Role play			講義
12	2	Unit 4 QuizNo9、Reading practice Role play			講義
13	2	Unit 4 III Look at this, IVcontrolled practice VSubstitution A			講義
14	2	Unit 4 VSubstitutionB、IVcontrolled practice IVDo you know?			講義
15	2	Review Unit 1～4 テストについて			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	英語Ⅱ	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 看護の場面に必要な英語の会話力を身につける					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ホスピタル・イングリッシュ<改訂版> vital sings					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	Unit 4 III. LookatThis			講義
2	2	Unit 4 IV. V A. B. V 2 Unit 5 Listening, Translation, Readingproction			講義
3	2	Unit 5 Readingproction Role play			講義
4	2	Unit 5 II. CheckYourUnderstanding III. LookatThis			講義
5	2	Unit 5 Quiz No, 2 VIA・B・C・D VII. TimeOut			講義
6	2	Unit 6 Listening. Translation ReadingPractice. II. CheckYourUnderstanding			講義
7	2	Unit 6 Role play Quiz No, 3・4			講義
8	2	Unit 6 Quiz No, 5 III. LookatThis			講義
9	2	Unit 6 Quiz No, 6・7 IV. Controlled Practice V. DoYou know?			講義
10	2	Helloween Paty VII. FutureTense			講義
11	2	Unit 7 Listening Translation ReadingPractice II. CheckYourUnderstanding			講義
12	2	Unit 7 Quiz No, 8 Role play			講義
13	2	Unit 7 Quiz No, 9 Christmas Quiz. ChristmasSongs			講義
14	2	Unit 8 Listening Translation ReadingPractice.			講義
15	2	Unit 8 Quiz No, 10 Role play VI. Controlled Practice			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能 I (細胞)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：堀 寿美枝					
<p>《科目目標》</p> <p>看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能を理解する。特に細胞の機能と構造、諸臓器・組織の内部環境の調節、外部環境の防御について理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、レポート</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 楽しくわかる生物・化学・物理 羊土社 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ社</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ガイダンス			講義
2	2	1. 人体を学ぶために基礎知識 1)人体とはどのようなものか 2)細胞・組織 3)構造と機能からみた人体			講義
3	2				協同学習
4	2	2. 内臓機能の調節 1)自律神経による調節 2)内分泌による調節 3)全身の内分泌腺と内分泌細胞(視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎) 4)ホルモン分泌の調整			講義
5	2				講義
6	2				講義
7	2				講義
8	2	3. 身体機能の防御と適応 1)皮膚の構造と機能 2)生体の防御機構 3)代謝と運動 4)体温とその調節			講義
9	2				講義
10	2				講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能 I (生殖)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：加藤恵美					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な生殖器の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：人間の生命の誕生に興味をもち、人の生殖機能についての知識を深め、子孫を残す仕組みについて理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①；医学書院</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	男性生殖器の構造と機能			講義
2	2	女性生殖器の構造			講義
3	2	女性生殖器の機能①（性周期）			講義
4	2	女性生殖器の機能②（復習）・生命発生の過程①（生殖細胞）			講義
5	2	生命発生の過程②（受精と着床・生殖器の分化と発達）			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅱ (循環器・血液)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：加藤恵美					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な循環器・血液の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：1. 血液の組成およびそれぞれの働きを理解する</p> <p>2. 生体内の物質の流通路としての心臓・血管系の構造とその役割を理解する</p> <p>3. 一般社会、医療の中で生体情報として用いられる血圧についてその意味と調節機構を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①；医学書院</p> <p>解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる 生物・化学・物理；羊土社</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	血 液① (血液の組成と機能、造血、赤血球・白血球)			講義
2	2	血 液② (血小板、血液の凝固と線維素溶解、血漿タンパク)			講義
3	2	血 液③ (血液型)			講義
4	2	循環器① (心臓の構造と機能、体循環と肺循環、心音)			講義
5	2	循環器② (心臓の内腔と血液の流れ、心臓壁、冠状動脈)			講義
6	2	循環器③ (刺激伝導系、血管の構造)			講義
7	2	循環器④ (全身の動脈・静脈、脈拍、リンパ)			講義
8	2	循環器⑤ (心拍出量と血圧、血圧の調節機構)			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅱ(呼吸)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1(14/30)	開講時期	1年前期
担当教員：中島加容子					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践するために必要な呼吸器の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：換気・ガス交換・呼吸調節に関わる呼吸器の構造と機能を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>① 系統看護学講座：人体の構造と機能 [1] 解剖生理学</p> <p>② 楽しくわかる生物、化学、物理 羊土社</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習の課題を行う。教科書を読みながら、プリントを整理してくる。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習を行うことで分からないことを明確にして授業に臨み理解につなげる。</p> <p>復習を行い、次回に行う小テストに備える。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	人間にとって息をする意味 上気道・下気道の構造、肺の構造(一部)			講義
2	2	肺・胸膜・縦隔の構造と機能、気道の機能			講義
3	2	呼吸のメカニズム、呼吸筋			講義
4	2	肺機能、換気障害の理解			講義
5	2	ガス交換とガスの運搬、酸素飽和度・酸素解離曲線			講義
6	2	肺の循環と血流、呼吸運動の調節			講義
7	2	酸塩基平衡、酸塩基平衡の異常			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：西田朱由美					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する。</p> <p>学習目標：摂取した食物がどのように消化吸收し、そして利用されるのか、消化器系の構造と機能を理解する。体液を調整する役割を果たす腎臓の機能、尿排泄の仕組みを理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①：医学書院 解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理：羊土社</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	口・咽頭・食道の構造と機能			講義
2	2				講義
3	2	胃の構造と機能			講義
4	2	小腸の構造と機能			講義
5	2	栄養素の消化と吸収			講義
6	2	食物が消化吸收されるまでの過程			講義
7	2	大腸の構造と機能			講義
8	2	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能			講義
9	2				講義
10	2	腹膜			講義
11	2	腎臓・糸球体の構造と機能			講義
12	2	尿細管の構造と機能			講義
13	2	傍糸球体装置・クリアランスと糸球体濾過量・生理活性物質			講義
14	2	排尿路			講義
15	2	体液の調節			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能IV (感覚器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：河合みゆき					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：生活の中で外部からの刺激を受け止める感覚系の役割について理解する。</p> <p>学習目標：1. 脳の高次機能と伝導路について述べるができる。</p> <p>2. 感覚器の構造と機能を述べるができる。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学, 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>感覚器は脳神経系から理解していくため、しっかり予習・復習しておくといよい。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	脳の特徴的な機能と障害 ・脳波 ・睡眠と意識障害 ・記憶 ・本能行動 ・伝導路			講義
2	2	感覚器系の構造と機能 1. 眼の構造と機能			講義
3	2	2. 耳の構造と機能			講義
4	2	3. 味覚・嗅覚			講義
5	2	4. 痛覚			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅳ(脳・神経)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1年前期
担当教員：中島加容子					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践するために必要な脳神経の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：生体の情報を感知し、発信しながら生体の環境適応を可能にし、恒常性を維持する脳・神経の構造と機能を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>①系統看護学講座：人体の構造と機能 [1] 解剖生理学</p> <p>②楽しくわかる生物、化学、物理 羊土社</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習の課題を行う。教科書を読みながら、プリントを整理してくる。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習を行うことで分からないことを明確にして授業に臨み理解につなげる。</p> <p>復習を行い、次回に行う小テストに備える。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	神経系の構造と機能 神経系の分類、神経系の構造、中枢神経と末梢神経、 神経細胞・支持細胞とは			講義
2	2	ニューロンでの興奮と伝達とシナプスでの興奮の伝達			講義
3	2	中枢神経の構造と機能 1 大脳の構造			講義
4	2	中枢神経の構造と機能 2 大脳の機能			講義
5	2	中枢神経の構造と機能 3 間脳の構造と機能			講義
6	2	中枢神経の構造と機能 4 脳幹の構造と機能 小脳の構造と機能			講義
7	2	中枢神経の構造と機能 5 脊髄の構造と機能 (脊髄反射)			講義
8	2	中枢神経系を守る組織と機能 髄膜、脳室と脳脊髄液、脳の血管と血液脳関門			講義
9	2	末梢神経系の構造と機能 1 脊髄神経の構造と機能			講義
10	2	末梢神経系の構造と機能 2 脳神経の構造と機能			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能V	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員：平野 信子					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：私たちの体は中枢神経の指令を受けて動き、移動し、様々な活動を行いながら日常生活を営んでいる。この体を支え、運動し、活動を行う骨格や筋肉の構造と機能を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座：専門基礎 解剖生理学 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>毎回小テストを実施します。授業の復習をして臨んでください</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	体を動かす仕組み①：骨の構造と種類、働き			講義
2	2	体を動かす仕組み②：関節の構造と種類			講義
3	2	体を動かす仕組み③：筋の構造と種類、働き			講義
4	2	体を動かす仕組み④：筋収縮のエネルギー代謝			講義
5	2	「姿勢を保つ」骨・関節と筋肉			講義
6	2	「腕を動かす」骨・関節と筋肉			講義
7	2	「足を動かす」骨・関節と筋肉			講義
8	1	「顔」の骨・関節と筋肉			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	微生物学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 主な微生物の特徴を知り、感染を予防することと、人体への作用を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病原微生物の種類と特徴、感染に関する用語			講義
2	2	経路別感染			講義
3	2	滅菌と消毒			講義
4	2	感染症の発生			講義
5	2	感染症法 標準予防策と感染経路別予防策 予防接種			講義
6	2	細菌総論 ブドウ球菌属 常在細菌			講義
7	2	連鎖球菌属、腸球菌属 ナイセリア属、緑膿菌 他			講義
8	2	プルセラ属、バルトネラ菌、フランシセラ属、ボルデテラ属 他			講義
9	2	ビブリオ属～コリネバクテリウム属、抗酸菌、放射菌 他			講義
10	2	ウェルシュ菌～グラム陰性嫌気性菌、スピロヘータ 他			講義
11	2	真菌による感染症、原虫の特徴、原虫による感染症			講義
12	2	ウイルスの特徴、痘瘡、ウイルス～インフルエンザウイルス 他			講義
13	2	ムンプスウイルス～ジカウイルス			講義
14	2	日本脳炎ウイルス～H I V			講義
15	2	肝炎ウイルス、プリオン病、寄生虫、国家試験問題紹介			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・主要・免疫について基礎的な知識を学び、健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病理診断の実際、老化と死			講義
2	2	先天異常と遺伝子異常			講義
3	2	腫瘍①			講義
4	2	腫瘍②			講義
5	2	腫瘍③			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・主要・免疫について基礎的な知識を学び、健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病理診断の実際			講義
2	2	病理学で学ぶこと			講義
3	2	細胞、組織の障害と修復			講義
4	2	循環障害①			講義
5	2	循環障害②、まとめ			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・主要・免疫について基礎的な知識を学び、健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	炎症について①			講義
2	2	炎症について②、免疫①			講義
3	2	免疫②			講義
4	2	免疫③、感染症			講義
5	2	感染、代謝異常			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療 I (呼吸器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>呼吸器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座:成人看護学[2]呼吸器 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	呼吸器疾患の症状			講義
2	2	感染症について			講義
3	2	結核について			講義
4	2	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) について			講義
5	2	肺がんについて			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療 I (脳神経系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>脳神経の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座:成人看護学[7]脳・神経 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	神経の解剖、意識障害、頭部外傷			講義
2	2	脳梗塞、TIA(一過性脳虚血発作)、脳出血、片頭痛			講義
3	2	クモ膜下出血、髄膜炎、転換、神経痛、顔面神経麻痺他			講義
4	2	パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症他			講義
5	2	認知症、多発性硬化症、重症筋無力症、モヤモヤ病			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療 I (循環器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 循環器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 系統看護学講座:成人看護学[3]循環器 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	循環器領域の構造と機能			講義
2	2	不整脈			講義
3	2	高血圧			講義
4	2	心不全			講義
5	2	虚血性心疾患			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ(血液・造血器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 血液・造血器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:成人看護学[4]血液・造血器 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	白血病			講義
2	2	悪性リンパ腫			講義
3	2	血液、輸血、造血幹細胞移植			講義
4	2	血小板、凝固異常			講義
5	2	多発性骨髄腫、造血不全			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ(消化器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>消化器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座:成人看護学[5]消化器 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	消化器の構造と機能、食道疾患①			講義
2	2	食道疾患②、胃疾患、大腸疾患①			講義
3	2	大腸疾患②、胃ろう			講義
4	2	肝臓の疾患について			講義
5	2	胆嚢、膵臓の疾患について			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ (代謝・内分泌)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 代謝・内分泌の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 系統看護学講座:成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	内分泌総論、下垂体の疾患			講義
2	2	甲状腺、副甲状腺の疾患			講義
3	2	副腎の疾患、内分泌救急			講義
4	2	内分泌・代謝疾患について①			講義
5	2	内分泌・代謝疾患について②			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ(運動器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 骨・関節の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:成人看護学[10]運動器 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	運動器について復習と疾患について			講義
2	2	運動疾患について			講義
3	2	関節リウマチ			講義
4	2	人工関節の看護			講義
5	2	脊椎疾患			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ(腎臓)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 腎臓の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	腎臓の構造と働き			講義
2	2	尿異常、水・電解質など			講義
3	2	腎泌尿器系疾患ほか			講義
4	2	腎不全、腎疾患ほか			講義
5	2	問題、演習			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ(泌尿器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 泌尿器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	尿路感染症			講義
2	2	尿路結石症、尿路管理			講義
3	2	尿路の通過傷害と機能障害			講義
4	2	尿路、性器の腫瘍①			講義
5	2	尿路、性器の腫瘍②			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ(言語療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 運動障害や高次機能障害に対する言語療法の特徴と生体の反応を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	言語聴覚療法概論 嚥下のメカニズム			講義
2	2	嚥下評価、間接訓練			講義
3	2	嚥下直接訓練、聴覚障害			講義
4	2	高次脳機能障害、嚥下体操			講義
5	2	失語症・構音障害			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ(作業療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 運動障害や高次機能障害に対する作業療法の特徴と生体の反応を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	作業療法の実際 起居・移乗・移動			講義
2	2	作業療法の実際 ADL 評価法、作業療法と看護の連携			講義
3	2	作業療法についての概論			講義
4	2	作業療法の実際 ①食事			講義
5	2	作業療法の実際 ②排泄、更衣、整容、入浴動作			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ(理学療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 運動障害や高次機能障害に対する理学療法の特徴と生体の反応を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	リハビリテーションの概論と基礎			講義
2	2	運動器系の障害とリハビリテーション			講義
3	2	杖・車椅子の操作実習			演習
4	2	中枢神経障害のリハビリテーション			講義
5	2	呼吸器系障害のリハビリテーション			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	疾病と治療V（ME）	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位（時間）	1（10/30）	開講時期	2年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 主な医療機器の原理を理解する。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材（教科書）及び参考図書>> 随時参考資料配布					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	輸液ポンプ・シリンジポンプの原理・取り扱い			講義・演習
2	2	電気メス、低圧持続吸引器の取り扱い			講義・演習
3	2	酸素飽和度測定装置取り扱い			講義・演習
4	2	HF T 取り扱い方法			講義・演習
5	2	NPPV／人工呼吸器の取り扱い			講義・演習
6	2	生体情報モニタの取り扱い			講義・演習
7	2	除細動器・ペースメーカーの取り扱い			講義・演習
8	2	IABP, PCRSの取り扱い			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅴ (手術)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (4/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 手術が生体に与える影響について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医師薬出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	腹腔鏡手術について			講義
2	2	開腹手術と周手術期の看護 (胃がん・大腸がん)			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅴ (麻酔)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 麻酔が生体に与える影響について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医師薬出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	麻酔について、麻酔の種類と合併症、術前・術後訪問			講義
2	2	麻酔について、回復質での全身管理			講義
3	2	麻酔について、手術および麻酔侵襲と生体反応			講義
4	2	麻酔について、術後合併症の予防			講義
5	2	総括			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療VI(女性生殖器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 女性生殖器系の健康障害と治療について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：専門分野Ⅱ成人看護学9 女性生殖器					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	女性生殖器の構造と内分泌機能			講義
2	2	婦人科診察、処置、検査			講義
3	2	婦人科疾患 (各論)			講義
4	2	乳がん			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療VI(放射線治療)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 放射線治療の基礎的知識を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 臨床放射線医学 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	画像診断と看護			講義
2	2	X線を使用しない画像診断と I V R			講義
3	2	放射線治療と看護			講義
4	2	放射線による身体への影響			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅶ(補完・代替療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	2年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 補完・代替療法の概要を学ぶ。整容医学とは異なる切り口で、患者を全人的に捉え、自然治癒力を引き出す療法について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 徹底図解 東洋医学のしくみ 新生出版社					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食養生とミトコンドリア			講義
2	2	東洋医学の基礎・脂質			講義
3	2	自律神経と感情のしくみ			講義
4	1	自然医学の基礎			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅶ(免疫・アレルギー)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	2年前期
担当教員: 山口 英明		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
現役医師が講師となり、実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている。					
《科目目標》 免疫・アレルギー系の健康障害と治療の概要を理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 新体系 看護学全書 成人看護学9 感染症/アレルギー・免疫/膠原病 メヂカルフレンド社					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	免疫・アレルギーの基礎			講義
2	2	アレルギー疾患			講義
3	2	膠原病の基礎			講義
4	2	膠原病の臨床			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護にいかす薬理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>医療における薬物療法について知るとともに代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>① 新クイックマスター薬理学 サイオ出版 ② 今日の治療薬 2020 南江堂</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	薬理学の概要、薬物と法令、薬物の作用			講義
2	2	薬物効果に影響を及ぼす要因 用量、相互作用、依存、アレルギー			講義
3	2	薬物の適用方法、体内動態、副作用			講義
4	2	処方箋と医薬品の剤形、取り扱いと計量、ジェネリック医薬品			講義
5	2	末梢神経作用薬			講義
6	2	中枢神経作用薬			講義
7	2	中枢神経作用薬、演習問題			講義
8	2	オータコイド・アレルギー用薬①			講義
9	2	オータコイド・アレルギー用薬②			講義
10	2	心臓血管系作用薬			講義
11	2	血液造血器系作用薬			講義
12	2	消化器系作用薬			講義
13	2	生殖器系作用薬			講義
14	2	物質代謝作用薬			講義
15	2	生物学的製剤と診断用薬			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	保健医療論	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位（時間）	1（15）	開講時期	3 年後期
担当教員： 山口 英明 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 保健医療に精通した現役医師が講師となり、実践的教育を行っている。					
≪科目目標≫ 専門職として社会に貢献する方向性、視点を学ぶ基礎として、人々の健康維持のために必要な保健・医療の現状、問題点、課題を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 系統看護学講座：専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕 総合医療論 医学書院					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病と癒し			講義
2	2	医療の歩みと医療観の変遷			講義
3	2	私たちの生活と健康			講義
4	2	私たちの生活と健康			講義
5	2	現代医療の最前線			講義
6	2	現代医療の新たな課題			講義
7	2	医療を見つめ直す新しい視点			講義
8	1	保健・医療・福祉の潮洑			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	公衆衛生学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	3 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 人間の健康と社会環境の関連を知り、組織的な公衆衛生活動について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生学 メジカルフレンド社					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	公衆衛生と健康の概念 環境と公衆衛生 1			講義
2	1	環境と公衆衛生 2			講義
3	2	食と公衆衛生 感染症 1			講義
4	2	感染症 2 人口と公衆衛生			講義
5	2	非感染症 成人保健			講義
6	2	母子保健 学校保健			講義
7	2	医療保障制度 介護保険			講義
8	2	精神保健 産業保健			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	関係法規	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	3 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 保健医療福祉に関する諸制度の概要を理解し、看護との関係を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 系統看護学講座：専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	イントロダクション			講義
2	2	民法の世界			講義
3	2	刑法の世界			講義
4	2	行政法の世界			講義
5	2	労働法の世界			講義
6	2	看護をめぐるさまざまな方法			講義
7	2	問題演習			講義
8	1	まとめ、法、倫理			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	社会福祉	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（16/30）	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>全ての人々が健康でその人らしい生活が送れるよう支援するために、社会福祉の理念、社会的な施策の動向、少子高齢化の現代社会とその福祉の実際、及び社会保障制度を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>健康支援と社会保障（3）社会福祉と社会保障 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	社会福祉、社会保障、福祉の実践			講義
2	2	社会資源の活用			講義
3	2	生活保護			講義
4	2	地域福祉			講義
5	2	年金制度、労災制度			講義
6	2	医療保険制度、雇用保険制度			講義
7	2	雇用保険制度、介護保険制度			講義
8	2	まとめ			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	社会福祉	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位（時間）	1（14/30）	開講時期	2年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>全ての人々が健康でその人らしい生活が送れるよう支援するために、社会福祉の理念、社会的な施策の動向、少子高齢化の現代社会とその福祉の実際、及び社会保障制度を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>健康支援と社会保障（3）社会福祉と社会保障 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	オリエンテーション・ 総論			講義
2	2	暮らしと社会福祉・ 社会保障			講義
3	2	ライフサイクルと社会福祉（児童）			講義
4	2	ライフサイクルと社会福祉（障害・ 難病）			講義
5	2	ライフサイクルと社会福祉（高齢者）			講義
6	2	生活と福祉・ 事例を通して			講義
7	2	まとめ			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	健康管理論	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1年前期
担当教員： 後藤 ゆかり					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：社会における人々の健康に関する意識状況を知る。また、自己の健康に関心を持ち、適切な健康管理を理解する。</p> <p>学習目標：1. WHO の健康の定義の概要を理解する。 2. 健康政策であるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康日本21の概要を理解する。 3. 健康に影響を及ぼす要因を理解し、その対応を考える。 4. 自分の健康を的確に把握し、適切に健康管理する必要性を理解する。 5. 健康問題へのアプローチの方法としての健康行動理論を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座：基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 健康とは			講義・演習
2	2	2. 健康の定義			講義・演習
3	2	3. 健康に影響する因子 4. 健康政策と健康教育			講義・演習
4	2	5. 健康行動理論① 健康信念モデル、自己効力感、 変化のステージモデル			講義
5	2	5. 健康行動理論② 計画的行動理論、ストレスとコーピング、 ソーシャルサポート、コントロール所在			講義
6	2	5. 健康行動理論③ 7つの理論のまとめと活用			講義
7	2	6. 発達段階からみた健康 ライフサイクルと健康 7. 健康に影響を及ぼす要因への対応			講義
8	1	8. 自分の健康について考える まとめ			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	健康と食生活	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 生活者の健康を維持するために必要な栄養素の構造と性質を理解し、酵素の働き・代謝について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> わかりやすい栄養学：ヌーヴェルロカリ					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	栄養とは、看護と栄養、食と文化			講義
2	2	食習慣と栄養、日本人の食事摂取、スポーツと栄養			講義
3	2	栄養指導、保健指導、食品の種類と栄養素			講義
4	2	ライフステージに適した栄養、健康指導①			講義
5	2	ライフステージに適した栄養、健康指導②			講義
6	2	疾患、症状に合わせての栄養、健康指導①			講義
7	2	疾患、症状に合わせての栄養、健康指導②			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	健康と食生活	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
《科目目標》 生活者の健康を維持するために必要な栄養素の構造と性質を理解し、酵素の働き・代謝について理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 よくわかる専門基礎講座：生化学 金原出版					
《授業外における学習方法》 自己学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	エネルギーと ATP、アミノ酸の構造、ペプチド結合			講義
2	2	タンパク質の立体構造と病気、酵素の分類			講義
3	2	酵素の影響因子			講義
4	2	アルコール代謝、アイソザイムと検査、糖の構造			講義
5	2	二糖類、多糖類 糖の代謝 (消化)			講義
6	2	解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、酸化的リン酸化			講義
7	2	糖新生、ペントースリン酸回路、血糖値の調整、脂質			講義
8	2	中性脂肪、脂肪の分解と合成、リポ蛋白質、コレステロール代謝			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	看護学概論	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
<p>担当教員： 後藤 ゆかり 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>看護を学ぶにあたっての基礎となる看護の理念、看護の対象としての人間、看護の主要概念、歴史的な変遷を理解し、看護の全体像を把握する。あわせて初期の段階での自分なりの考えを整理する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座：基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前の学習課題をやってきて、授業に臨むこと</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>教科書・自ら調べた資料・映像・体験談などを教材として、看護についてグループワークを行い、「看護とは何か？看護師とは何者か？」について考えを深めましょう。また、話し合いを通して他者の考えを尊重しながら自分の意見を適切に主張する態度を身につけましょう。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護師の役割と必要とされる能力			講義・演習
2	2	看護の基本概念、人間の「こころ」「からだ」「暮らし」の理解			講義・演習
3	2	健康の理解、環境と人間及び健康との関連			講義・演習
4	2	看護実践のための枠組み① ナイチンゲール看護論の理解			講義・演習
5	2	映像から見える看護実践①			講義・演習
6	2	映像から見える看護実践②			講義・演習
7	2	看護実践のための枠組み② ヘンダーソン看護論の理解			講義・演習
8	2	看護実践のための枠組み③ ヘンダーソン看護論の理解			講義・演習
9	2	看護実践のための枠組み④ 主な理論家の業績と看護概念			講義・演習
10	2	看護の法的基盤と教育制度			講義・演習
11	2	看護の質の保証① 看護ケアの原則			講義・演習
12	2	看護の質の保証② 看護における倫理			講義・演習
13	2	看護の質の保証③ 看護をめぐる医療事故			講義・演習
14	2	看護の質の保証④ EBN チーム医療における看護の役割			講義・演習
15	2	看護の歴史的変遷と変化 これから求められる看護			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術 I	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：片倉 貴子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 対象との関係を築くために必要なコミュニケーション技術の基礎について理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験・レポート					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版 ④ 看護コミュニケーション基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院					
《授業外における学習方法》 定期的に課題に取り組みコミュニケーションについて学びを深めていく					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	コミュニケーションの意義と目的			講義・演習
2	2	コミュニケーションの構成要素と成立過程の仕組み			講義・演習
3	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本的態度・関係性について			講義・演習
4	2	効果的なコミュニケーションの実際			講義・演習
5	2	傾聴について			講義・演習
6	2	共感的理解			講義・演習
7	2	情報収集の技術			講義・演習
8	2	説明の技術			講義・演習
9	2	コミュニケーション障害への対応			演習
10	2	コミュニケーション障害への対応			グループ発表
11	2	プロセスレコードについて			講義・演習
12	2	プロセスレコードを書いてみよう			演習
13	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る			演習
14	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る			演習
15	2	アサーティブネスについて			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：服部 千佳 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 複数の臨床で経験してきたフィジカルアセスメントの技術とその根拠について、その経験を 活かした実践的な事例を含めた講義を行っている。					
≪科目目標≫ 学習目的：フィジカルアセスメントの目的、方法について理解する 対象の身体の状態を観察するためにバイタルサインの測定技術を身につける 学習目標：対象の身体の状態を観察するためにバイタルサインの測定技術を身につける					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、技術テスト、課題提出					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 系統看護学講座:専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA ③ 看護学生のためのバイタルサイン よくわかるBOOK メジカルフレンド社					
≪授業外における学習方法≫ 自己学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	フィジカルアセスメントとバイタルサインとは			講義
2	2	体温維持に関する基礎知識と体温測定のアセスメント			講義
3	2	呼吸①呼吸に関する問診・胸郭の視診・打診・触診			講義
4	2	呼吸②呼吸音の聴取、呼吸のアセスメント			講義
5	2	体温測定、呼吸についてのフィジカルイクザミネーション			演習
6	2	【脈拍】脈拍測定に関する基礎知識、脈拍測定方法とアセスメント			講義
7	2	【血圧】血圧に関する基礎知識、血圧測定方法とアセスメント			講義
8	2	血液循環に関する問診と意識について			講義
9	2	脈拍測定・血圧測定の実際(演習)			演習
10	2	バイタルサインのテストについて			
11	2	排泄と体液調節に関連するフィジカルアセスメン			講義
12	2	腹部の聴診と触診・打診と下肢浮腫の観察			演習
13	2	症状に合わせたフィジカルアセスメントの活用「息苦しい」など			講義
14	2	バイタルサイン測定の方法テスト			演習
15	2				

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (安全)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：羽賀紀子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関において看護師として実務経験のある教員が教授する					
<<科目目標>> 学習目的：看護における安全の考え方を理解し、基礎的な感染防止の技術を身につける 学習目標：1. 看護における安全の考え方と医療事故防止の取り組みを理解する 2. 感染の成立要件、標準予防策、感染経路別予防策、感染性廃棄物の取り扱いを理解する 3. 手指衛生、個人防護用具の着脱を正しく実施できる					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 看護学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 課題学習を行う					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護における安全の考え方、医療事故と医療事故防止			講義
2	2	感染の定義と成立過程の理解、感染予防の3原則			講義
3	2	標準予防策、感染性廃棄物の取り扱い			講義・演習
4	2	感染経路別予防策			講義・演習
5	2	感染予防基本技術(手指衛生、個人防護用具)			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (環境)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 学習目的：看護師の判断が中心となって実践する療養環境を整える援助技術を身につける。 学習目標：1.生活者である対象の理解をふまえ、病床環境を調整する必要性がわかる。 2.対象者の生活の場としての環境の要素がわかる。 3.安全で安楽な病床を準備できる。 4.環境整備の方法を知り、援助することができる。					
《成績評価の方法》 筆記試験、技術試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病床環境の基礎知識			講義
2	2	ベッドメイキングの基礎知識			講義
3	2	2人で行うベッドメイキング			演習
4	2	臥床患者のシーツ交換			演習
5	2	臥床患者のシーツ交換			演習
6	2	病床環境の調整援助のアセスメントの視点			講義
7	2	事例による病床環境の情報収集とアセスメント			グループワーク
8	2	病床環境調整の方法			グループワーク
9	2	病床環境調整			演習
10	2	技術試験「臥床患者の下シーツ交換」			技術試験

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ(清潔)	科目区分	専門分野Ⅰ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1年後期
担当教員：堀 寿美枝 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 人間にとっての清潔・衣生活の意義について理解し、基礎的な援助技術を身につける。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、技術試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 系統看護学講座：専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 基礎看護技術 講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術編 サイオ社 ④ 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 ⑤ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 特に演習については、教科書や視覚教材を使い事前学習して参加する					
≪履修に当たっての留意点≫ 演習時はパジャマ上下(長袖・前開き・襟付き)、スパッツ、タオル類など持参する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	人間にとっての清潔の意義の理解 清潔に関する周辺知識の理解			講義
2	2	身体清潔のための援助方法の理解			協同学習
3	2	・人間にとっての衣生活の意義			講義・演習
4	2	・衣生活に関するアセスメントと援助方法(パジャマ交換実施)			
5	2	「全身清拭」の援助を計画しよう			講義・演習
6	2	臥床患者の全身清拭			演習
7	2				
8	2	足浴			講義・演習
9	2	洗髪			講義・演習
10	2	臥床患者の全身清拭			技術試験

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ(活・休)	科目区分	専門分野Ⅰ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1年前期
担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<<科目目標>> 学習目的：人間にとっての活動及び休息・睡眠の意義について理解し、基礎的な援助技術を身につける 学習目標：人間にとっての休息と睡眠の意義を理解し、援助方法が理解できる。 1. 人間にとっての活動の意義について理解し、動かないことによって起こる弊害がわかる。 2. ボディメカニクスを活用し、最小のエネルギーで安全に身体を動かしたり保持したりする技術を身につける。 3. 移動援助技術の基本を習得できる。 4. 車椅子、ストレッチャーに触れ、移送の目的や用具の操作、移送技術の基本を習得できる。 5. 患者への配慮の大切さを理解し、思いやりのある行動がとれるようにする。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ① 系統看護学講座：専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	休息と睡眠の基礎知識、睡眠障害の観察の視点と援助			講義
2	2	活動の基礎知識、活動障害の観察の視点と援助			講義
3	2	ボディメカニクスと体位変換、移動・移乗の援助			講義
4	2	安楽な体位の調整、体位変換			演習
5	2	車いす・ストレッチャーでの移乗・移送			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術V(食・排)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<<科目目標>> 1. 人間にとって食べることの意義について理解し、食事・栄養について基礎的な援助技術を身につける。 2. 人間にとって排泄することの意義について理解し、基礎的な援助技術を身につける。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA ③ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA ④ 看護師のための早引き検査値・パニック値ハンドブック ナツメ社					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食事の意義とプロセス			講義
2	2	食事援助におけるアセスメント			講義
3	2	食事援助の基本、摂食障害時の食事援助			講義
4	2	口腔ケア			講義
5	2	食事介助・口腔ケア			演習
6	2	非経口摂取の援助(経管栄養法・中心静脈栄養)			講義
7	2	排泄の意義とプロセス、排泄援助におけるアセスメント			講義
8	2	自然排尿および自然排便の介助の実際			講義・演習
9	2	おむつ交換			演習
10	2	陰部洗浄			演習
11	2	排便障害時の援助、排便困難時のアセスメント			講義
12	2	温罨法・腹部マッサージ			演習
13	2	グリセリン浣腸			演習
14	2	排尿障害時の援助(一時的導尿・持続的導尿)			講義
15	2	一時的導尿			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術VI (診・検)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<p>担当教員：上田麻衣 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師は、健康障害のある方々への援助として日常生活援助の他に、医師の行う検査や治療行為の介助を行う。患者がより安全・安楽に検査・治療を受ける事が出来る様、看護師の行う基本的な援助についてその根拠を理解しながら援助技術を学ぶ。</p> <p>学習目標：診察と治療処置の目的・役割を理解し、援助技術を身に付ける。無菌操作の方法を修得できる。呼吸・循環を正常に維持する援助技術を身に付けることができる。吸引・吸入の適応を理解することができる。酸素吸入・噴霧吸入の方法を理解することができる。創傷管理・包帯法についての基礎知識・援助方法を理解する。シュミレーターを使用して静脈血採血ができる。</p>					
《成績評価の方法》筆記試験					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院</p> <p>② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA</p> <p>③ 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら演習に臨めるようにする</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>細かい技術もあり、デモンストレーションでは1つ1つ確実に伝わるように行う</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 診察の意義と援助の方法 2. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識			講義
2	2	3. 無菌操作の基本			講義
3	2	4. 無菌操作演習			演習
4	2	5. 吸引 一時的吸引 (口腔・鼻腔) の基礎知識			講義
5	2	5. 吸引 持続的吸引の基礎知識			講義
6	4	6. 吸引の実施 (演習)			演習
7		7. 吸入 (ネブライザー) 療法			講義
8	2	8. 酸素吸入療法			講義
9	2	9. 創傷管理			講義
10	2	10. 包帯法演習			演習
11	2	11. 検査を受ける患者の看護			講義
12	2	12. 血液検査 目的・採血部位・留意事項			講義
13	2	12. 血液検査 使用物品の名称			講義
14	4	13. 検査の援助 腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸水穿刺・腹水穿刺			講義
15		14. 採血演習 (シュミレーターを使用)			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅶ (与・輸)	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：上田麻衣 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：薬物療法。輸血に関する援助について異議・目的を理解し、患者に必要な援助の方法を理解できる。 学習目標：薬物療法における看護師の果たす役割が理解できる。経口的・非経口的与薬法の生体への管理と注意事項が理解できる。注射実施・輸液管理に伴う危険性について理解し、安全な注射実施の方法を身に付ける。輸血療法に関する基礎的知識を学ぶ。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら演習に臨めるようにする					
《履修に当たっての留意点》 細かい技術もあり、デモンストレーションでは1つ1つ確実に伝わるように行う					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 与薬の基礎知識 剤形と吸収経路・看護師の役割・薬の管理			講義
2	2	2. 経口与薬・その他の与薬法			講義
3	2	3. 注射 注射の基礎知識・皮内、静脈内、筋肉内注射			演習・演習
4	2	注射部位の確認			
5	2	4. 皮下注射 目的・適応・必要物品・注射部位・手技			講義 一部実技
6	2	注射剤の準備 (アンプル・バイアル)			
7	4	5. 皮下注射			演習
8					
9	2	6. 静脈内注射 ワンショット・輸液管理の基礎・安全管理			講義
10	2				
11	4	7. 点滴静脈内注射の準備・実施			演習
12					
13	2	8. 輸血援助の基礎知識・援助の実際			講義
14	2	9. 中心静脈カテーテル留置の介助			講義
15	2	10. 持続点滴を施行中の患者の観察			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程 I	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年後期
担当教員：片倉 貴子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 効果的な看護活動をするため、看護倫理・看護の役割を基に問題解決技法である看護過程を展開する方法を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院					
《授業外における学習方法》 基礎看護学実習 II に向けて課題に取り組む					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護過程とは			講義・演習
2	2	看護過程展開に必要な能力 問題解決能力・クリティカルシンキング			講義・演習
3	2	倫理的配慮と価値判断 リフレクション			講義・演習
4	2	看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化			講義・演習
5	2	看護過程の各段階 3) 看護計画 4) 実施			講義・演習
6	2	看護過程の各段階 4) 実施 5) 評価			講義・演習
7	2	看護における記録			講義・演習
8	1	看護における報告			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅰ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年期
担当教員：加藤 利江 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>					
看護師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し、講義を行っている。					
《科目目標》 看護過程を展開するための基礎的な知識として、アセスメント、問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のそれぞれの方法と一連の流れを理解する。また、事例を用いた看護過程を展開し、アセスメントから計画立案の方法・記録方法について学ぶ。					
《成績評価の方法》 課題の評価表(ループリック)に基づき評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ① NEW 実践! 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第6版 古橋洋子編著 学研 ② 看護診断ハンドブック第11版 リンダ J. カルペニート著 医学書院 ③ 看護過程に沿った対症看護 第5版 高木永子監修 学研メディカル秀潤社 ④ 系統看護学講座：専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 クリアファイル (A4 40 ポケット)1 冊 (できれば横入タイプ) を準備する。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	事例1の疾患を調べ、共同問題を考える			講義
2	2	情報収集・アセスメントの視点(NANDAの領域：13領域とは)			講義
3	2	事例1の情報収集アセスメントから仮診断を導く：領域1・2・3			講義
4	2	：領域4・5			講義
5	2	：領域6・7・8・9			講義
6	2	：領域10・11・12・13			講義
7	2	事例1の全体像を描き、看護診断を実施し、優先順位をつける			講義
8	2	事例1のフォーカスアセスメントをし、期待される成果、看護計画を立案する			講義
9	2	事例2の疾患を調べ、共同問題を考える			講義
10	2	事例2の仮診断をグループで考え発表する：領域1・2・3・4			演習
11	2	：領域5・6・7・8			演習
12	2	：領域9・10・11・12・13			演習
13	2	事例2の全体像・フォーカスアセスメント・期待される成果と看護計画			講義
14	2	事例2における看護記録 SOAP の書き方			講義
15	2	看護過程の評価の視点			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合演習 I	科目区分	専門分野 I	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年後期
担当教員：堀 寿美枝 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 事例をアセスメントし、日常生活援助の必要性と安全・安楽・自立・個別性を考える。 基礎看護技術の原理原則を確認し、事例に合わせた看護援助を実施する。					
《成績評価の方法》 レポート、技術試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ① 系統看護学講座：専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 課題学習（事例の学習と看護技術練習）					
《履修に当たっての留意点》 クリアポケットファイルを各自準備し、資料を含めファイリングする					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ガイダンス			講義
2	2	事例に基づく疾患の理解について			講義・演習
3	2	事例に基づく日常生活援助について			講義・演習
4	2	看護技術練習			演習
5	2	看護技術練習			演習
6	1	看護技術練習			演習
7	2	事例に合わせた日常生活援助技術の実施			技術試験
8	2				

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習 I	科目区分	専門分野 I	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年前期
担当教員：森 真由 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師としての実務経験と看護教員としての経験を活かし、看護職の役割と機能について教授している。					
《科目目標》 実習目的：講義で学んだ看護の機能や基礎看護技術の知識・技術やその考え方を基に、病院の機能・役割、療養生活環境を知り、患者とのコミュニケーションや援助を通して、今後学習するにあたり自分が大切にしていきたいことを考える。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	2020 年 9 月 23 日～10 月 9 日				
時間数	合計 45 時間				
実習内容	1. 病院の機能と役割を理解する 2. コミュニケーション技術を意識して、患者さんと関わるができる 3. 患者の状態に合わせた援助がどのように実施されているかを学び、患者の思いに沿いながら援助を考えることができる 4. 看護について考えたことをまとめる 5. 看護者として望ましい態度とは何かを考え、行動する				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野1	授業の方法	実習
対象学年	1学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	1年後期
担当教員：堀 寿美枝 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として看護業務に携わった教員が教授している。					
《科目目標》 実習目的：受け持ち患者を通して、日常生活援助を中心に患者を捉え、患者の気持ちや思い（ニーズ）を踏まえて必要な看護援助を考える。患者を見ることにより看護の視点やものの見方・考え方を学ぶ。また、患者の思いを引き出すような関わりを意識したコミュニケーションを学ぶ。患者に行った援助がその患者にとってどのような影響があったのか多角的に考える力を養い、看護の「個別性」とは何かを理解する。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	2021年1月12日～1月29日				
時間数	合計90時間				
実習内容	1. 人間関係が築けるようなコミュニケーションができる 2. 看護の視点を意識したコミュニケーションができる 3. 患者の健康障害を知る 4. 患者のバイタルサインが測定できる 5. 患者の全体像をとらえ、必要な看護を考える 6. 患者に必要な看護援助ができる 7. 自分自身でリフレクションできる 8. 看護に対する自分の考えを相手にわかりやすく伝えられる 9. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	1年前期
担当教員：平田めぐみ 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授している					
《科目目標》 役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験・実技試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 文献学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	成人各期の特徴及び発達課題			講義
2	2	成人各期の健康障害とヘルスプロモーションに向けての課題			講義
3	2	生活習慣病の発症予防と自己効力感			講義
4	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念（病みの軌跡・セルフケア）			講義
5	2	成人への看護に有用な概念（ストレス・危機）			講義
6	2	成人の学習の特徴と看護			講義
7	2	看護における教育・指導技術			講義
8	2	健康教育演習のオリエンテーション			講義
9	2	情報収集（面接）			演習
10	2	情報収集（面接）			演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
13	2	指導の実施及び評価			演習
14	2	指導の実施及び評価			演習
15	2	指導後の対象の状況との確認と評価（面接）			演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員: 松原 裕子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 手術室・外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。					
《科目目標》 周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。					
《成績評価の方法》 筆記試験・レポート					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ① 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 ② 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ③ 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 疾病と治療Ⅴ(麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習し、授業に臨む 事前学習に積極的に取り組み授業に臨む					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査			講義
2	2	生体侵襲理論・循環器系への影響と看護			
3	2	呼吸器系への影響と看護・消化器系への影響と看護			
4	2	創傷感染・縫合不全の予防と看護			
5	2	術後1日目の看護 ～術後1日目に必要な看護を考える～ ・疾患の理解 ・全体像(関連図) ・フォーカスアセスメント			演習
6	2				
7	2				
8	2				
9	2				
10	2	術後1日目の看護実践 ～術後1日目に必要な看護を実践する～			演習
11	2				
12	2				
13	2	術後1日目以降の看護実践 周手術期におけるリスクマネジメント			講義
14	2				
15	2				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員：平田めぐみ 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授している					
≪科目目標≫ 疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院 ② 系統看護学講座：成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 ③ 系統看護学講座：成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 文献学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義・グループワーク
3	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
4	2	脳死と臓器移植			講義
5	2	心肺停止とその対応			講義・グループワーク
6	2	ショックとその対応			講義
7	2	急性心筋梗塞の看護①			講義・グループワーク
8	2	急性心筋梗塞の看護②			講義・グループワーク
9	2	意識障害への対応①			講義・グループワーク
10	2	意識障害への対応②			講義・グループワーク
11	2	急性呼吸不全の看護			講義
12	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
13	2	体位ドレナージ			演習
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年前期
<p>担当教員：服部 千佳 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>成人看護の実務経験を活かして、主な慢性疾患患者の特徴やアセスメントの視点、看護の方法に関する基礎知識を教授している。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>慢性期・リハビリテーション期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、セルフケアできるよう自己の力を引き出す看護を学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>成人看護学 慢性期看護論 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>疾病と治療で学習した慢性期疾患について事前学習を行い授業に臨む</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある人への看護			講義
2	2	慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と理解 慢性期にある人への看護援助			
3	2	慢性の呼吸機能障害を持つ患者の看護(COPD)			講義
4	2				
5	2				
6	2	慢性の代謝機能障害を持つ患者の看護(糖尿病)			講義
7	2	血糖測定			
8	2	慢性の内分泌環境調節障害を持つ患者の看護(腎臓病)			講義
9	2				
10	2				
11	2	リハビリテーションを必要とする人への看護(脳梗塞)			講義
12	2				
13	2				
14	2	慢性疾患患者への看護			演習
15	2				

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅳ(終末期看護)	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員：中島加容子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 終末期看護を展開する病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
≪科目目標≫ 学習目的：看護師が看護実践するために必要な終末期看護の知識について理解する 学習目標：終末期にある人における心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学ぶと同時に、自分の死生観を養う					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験と「自分の考える終末期看護」の発表および参加					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ 絵で見るターミナルケア 改訂版 学研メディカル秀潤社					
≪授業外における学習方法≫ 指定した課題を行ってくる。その課題でグループワークを行うことがある。					
≪履修に当たっての留意点≫ 毎回授業の冒頭で、4名前後の学生が「自分の考える終末期看護」の発表をする。各自で選択した書物を読み、それをもとに発表する。発表後、クラスで意見交換をする。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	講義開始前の気持ちの整理 終末期にまつわる言葉の整理1 ターミナル・終末期・エンド オブ ライフ ケアの定義、ホスピスの歴史 など			講義
2	2	終末期にまつわる言葉の整理2 ホスピスケア・緩和ケアケアの理解、非がん患者の緩和ケア、ギア チェンジ など			講義
3	2	終末期を過ごす場所・死亡の場所の理解、DVDを鑑賞しホスピスにおけるボランティアの役割と終末期ケアの意味を深める、チームアプローチの理解、ホスピスのスライドよりホスピスの環境・大切にしていることを理解する			講義
4	2	死をめぐる倫理的課題の理解(安楽死を中心に) 告知・意思決定・アドバンスディレクティブ(DNAR/リビングウィル)、安楽死/尊厳死、セデーション			講義
5	2	DVDを鑑賞し、意思決定を支えることを考える			講義
6	2	終末期におけるトータルペインと看護(スピリチュアルケアを中心に) 話すことの意味について理解する			講義
7	2	キューブラー ロスの「死ぬ瞬間」を読み、死の受容過程を理解する			演習
8	2	DVDを鑑賞・資料を読み、死にゆく人の心理過程を深める			講義
9	2	終末期における症状アセスメントと援助方法 呼吸困難・倦怠感・食思不振・便秘・不眠			グループ発表
10	2	悪液質の理解、 DVDを鑑賞し終末期の人にとって食べることの意味を深める			講義
11	2	終末期の人の疑似体験(死の体験旅行)をすることで自分の死生観を深める			演習
12	2	ターミナル期の状態と看護・家族ケア			演習
13	2	危篤時・臨終時・死亡時の看護、 DVDを鑑賞し、エンゼルケアの意味を深める			講義
14	2	死亡時の手続き、悲嘆と予期悲嘆、遺族ケア、DVDを鑑賞し終末期看護の在り方を考える、講義終了後の気持ちの整理・初回との比較			講義
15	2	非常勤講師における終末期看護の実際			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅴ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期
担当教員：松原 裕子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 血液内科、外科病棟で、がん看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう					
≪科目目標≫ 学習目的：がんに対する最新の知見や根拠となる知識を学び、がん患者がその人らしい生活を送れるように援助するための看護を学ぶ 学習目標：がん医療の現在と看護について理解をするために、がんの病態や臨床経過や治療を理解する。それらを踏まえて、がん患者の看護を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 系統看護学講座：別巻 がん看護学 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 自己学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	がん医療の現在と看護、がんを取り巻く状況			講義
2	2	エビデンスに基づく看護実践、がんの病態と臨床経過他			講義
3	2	がん患者の看護、がん患者の苦痛に対するマネジメント他			講義
4	2	がん患者の看護：がん患者の苦痛に対するマネジメント他			講義
5	2				
6	2	がんの治療：薬物療法、放射線療法、有害事象への対策			講義
7	2				
8	2	がん治療に対する看護：がん治療における看護の重要性			講義
9	2	がん治療の場と看護：外来などがん患者の療養支援			講義
10	2	事例検討①			演習、講義
11	2	事例検討②			演習、講義
12	2	事例検討③			演習、講義
13	2	事例検討④			演習、講義
14	2	事例発表：認定看護師からの講義—がん化学療法について			演習、講義
15	2	事例発表：疼痛 認定看護師からの講義—緩和ケアについて			演習、講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	老年看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	1学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	1年後期
担当教員：平野 信子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：老年看護の対象および高齢者を取り巻く環境を理解し、看護の役割を学ぶ 学習目標：①老年看護の対象を理解する ②高齢者を取り巻く社会の動きと現状を理解する ③加齢に伴う体の変化や疾病をめぐる変化の特徴を理解する ④高齢者疑似体験を通し、老化に伴う心理を推測する ⑤高齢者の尊厳と権利擁護の考え方を理解し、高齢者のもてる力を引き出す 老年看護の基本を理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験 レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座：老年看護学 医学書院					
《授業外における学習方法》 自己学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	高齢者を理解する（ライフサイクル・生きてきた時代背景）			講義
2	2	高齢者の力を活かすか関わりを考える			講義
3	2	高齢社会への対応：データから高齢社会の現状を読み取る			講義
4	2	高齢者の権利擁護①（高齢者虐待・成年後見制度）			講義
5	2	高齢者の権利擁護②（身体拘束）			講義
6	2	高齢社会における社会保障の動き（介護保険制度・後期高齢者医療制度）			講義
7	2	加齢に伴う一般的变化①			講義
8	2	加齢に伴う一般的变化②			講義
9	2	高齢者の疾病をめぐる特徴			講義
10	2	高齢者疑似体験			演習
11	2				
12	2	老年看護の基本（ICFの考え方、生活の視点で看護を考える）			講義
13	2	認知症の理解			講義
14	2	「高齢者と死」を考える			講義
15	2	「老年看護で大切にしたいこと」を考える			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(15)	開講時期	2年前期
担当教員：平野 信子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：高齢者に起こりやすい問題を知り、予防という視点から看護の役割を考える 学習目標：①地域高齢者を支えている医療・福祉職とその役割を理解する ②介護が必要な高齢者を支える施設および通所施設を理解する ③介護保険制度改正による予防の取り組みを理解する ④高齢者の健康を支えるための栄養面での取り組みを理解する ⑤転倒しないための取り組みを理解する ⑥健康体操（介護予防運動）および遊ビリテーションの意義を理解し、計画・実施・評価できる					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 系統看護学講座：老年看護学 医学書院					
《授業外における学習方法》 自己学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	高齢者を取り巻く介護・介護予防の現状を知る (高齢者を支えている職種、介護保険のサービス構成と取り組み)			講義
2	2	予防という視点からの看護①:高齢者の栄養の現状と改善への看護			講義
3	2	予防という視点からの看護②:転倒予防・リスクアセスメント			講義
4	2	高齢者のリハビリテーション、介護予防を意識した健康体操 遊ビリテーションを計画する①			講義
5	2	遊ビリテーションを計画する②			講義
6	2	遊ビリテーション実施			演習
7	1				
8	2	遊ビリテーションの運営について考える			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期
担当教員：井上 亜希 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 学習目的：慢性疾患や健康障害を持つ高齢者が対象である。その対象が、疾患や障害をもちながらもその人らしく生活を営むことができるように対象の持てる力に着眼し、安心していきいきと暮らせるよう、安全面にも配慮した看護を展開できるようにしたい。 学習目標：高齢者によくみられる症状・障害について生活機能の視点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・課題レポート					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 ② 系統看護学講座:老年看護学 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	老年看護の展開における考え方・エンパワーメント			講義
2	2	活動に焦点をあてたアセスメントと看護・廃用症候群を予防する看護			講義
3	2	休息に焦点をあてたアセスメントと看護			講義
4	2	食事に焦点をあてたアセスメントと看護、服薬アドヒアランス			講義
5	2	排泄に焦点をあてたアセスメントと看護、摘便、排尿日誌			講義
6	2	排便・排尿障害の理解とアセスメントの方法			講義
7	2	身じたくに焦点をあてたアセスメントと看護1:老人性皮膚掻痒症、白癬			講義
8	2	身じたくに焦点をあてたアセスメントと看護2:爪切り、爪やすり			講義・演習
9	2	コミュニケーションに焦点をあてたアセスメントと看護1:言語障害			講義
10	2	コミュニケーションに焦点をあてたアセスメントと看護2:視力障害・聴力障害			講義
11	2	症状に焦点をあてたアセスメントと看護:脱水・浮腫・痛み			講義
12	2	症状に焦点をあてたアセスメントと看護:認知症1:エマニチュート			講義
13	2	症状に焦点をあてたアセスメントと看護:認知症2:パーソンセンタードケア			講義
14	2	症状に焦点をあてたアセスメントと看護:認知症3:各種療法			講義
15	2	症状に焦点をあてたアセスメントと看護:集団感染が心配される感染症			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期
担当教員：井上 亜希 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<<科目目標>> 学習目的：入院生活を送る高齢者に対し看護を展開できるように、主要な疾患の理解と、治療及び経過に応じたケアの方法を学ぶ。また、統合医療の側面からも可能なアプローチについても取り入れていく。全体を通して持てる力に着目し、「その人らしく」を支えていく看護を追求していく意識を養いたい。 学習目標：高齢者によく見られる健康障害と看護の考え方を理解し、高齢者に使う頻度の多い看護技術を身につける。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験・課題レポート					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ① 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 ② 系統看護学講座:老年看護学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 課題学習を行う。					
<<履修に当たっての留意点>> 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	大腿骨頸部骨折患者の看護：深部静脈血栓症・褥瘡			講義
2	2	大腿骨頸部骨折患者の牽引中の観察及び看護, 弾性ストッキングの着脱			講義・演習
3	2	外転枕使用中の側臥位、褥瘡予防(体圧測定・背抜き)			演習
4	2	術後せん妄、股関節脱臼予防			講義
5	2	慢性経過をたどる疾患をもつ高齢者への看護：パーキンソン病			講義
6	2	終末期の看護を考える：意思決定支援			講義
7	2	経管栄養法:挿入・栄養注入時の確認と観察			講義・演習
8	2	経管栄養法			演習
9	2	経管栄養法			演習
10	2	摂食嚥下障害看護 *外部講師			講義・演習
11	2	急性期・手術療法を受ける高齢者への看護：前立腺肥大			講義
12	2	感染性疾患の感染予防と対策：結核			講義
13	2	薬物管理とリスクマネジメント：肺炎・心不全・糖尿病の治療			講義
14	2	老年の看護過程			講義
15	2	統合医療の側面から実践しやすい技術：指圧・マッサージ			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年前期
担当教員： 西田朱由美 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 小児各期の成長発達を理解し、小児の特徴を総合的にとらえる。健康を保持増進するための小児看護の機能および態度を学ぶ。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護：メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術：メディカ出版					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ガイダンス			講義
2	2	小児看護の対象とその時期・小児の成長発達の原則と影響因子			
3	2	身体発育および発達の評価			
4	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：新生児			講義
5	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：乳児			
6	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：乳児			講義
7	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：乳児			
8	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：幼児			講義
9	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：幼児			
10	2	子どもの栄養			講義
11	2	調乳			演習
12	2	離乳食			演習
13	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：学童期			講義
14	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：思春期			講義
15	2	小児看護の変遷・小児看護の機能と役割・子どもと家族			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(15)	開講時期	2年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 小児期に起こりやすい代表的な疾患の病態・治療・検査について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ小児看護学③ メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	染色体異常、先天異常、新生児の看護			講義
2	2	リウマチ性疾患、血液疾患、精神疾患、事故、虐待			講義
3	2	小児のV P D			講義
4	2	小児の感染症、呼吸器疾患、消化器疾患			講義
5	2	消化器疾患、腎泌尿器疾患、アレルギー			講義
6	2	小児アレルギー疾患			講義
7	2	代謝疾患、循環器疾患			講義
8	2	神経系疾患、内分泌疾患			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年前期
担当教員：大場房代 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科病棟勤務経験があり、その経験から得た知識や患児、家族との関わりなどを講義に いかしている。					
≪科目目標≫ 子どもの健やかな成長発達を目指し、子どもの生命を護る法律や政策を理解する。子どもの 健康障害が子どもと家族に与える影響を理解し、小児看護の基礎として必要な知識を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ小児看護学①②③ メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫ 小児看護学概論で学んだ、子どもの成長発達を想起しながら子どもの看護を考える					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	小児保健 小児と家族の諸統計			講義
2	2	小児をめぐる法律と政策 子どもの権利			講義
3	2	症状を示す小児の看護 発熱			講義
4	2	症状を示す小児の看護 脱水(下痢・嘔吐)			講義
5	2	症状を示す小児の看護 呼吸困難			講義
6	2	症状を示す小児の看護 けいれん			講義
7	2	子どもの入院と子どもの家族への看護			講義
8	2	周手術期の小児と家族への看護 痛みのある子どもと家族への看護			講義
9	2	先天的な問題のある子どもと家族への看護 心身障害のある子どもと家族への看護 在宅における子どもと家族への看護			講義
10	2	救急救命処置の必要な子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護			講義
11	2	子どもへの関わり方を考える			講義
12	2	子どもへの関わり方を考える			GW
13	2	子どもへの関わり方を考える			GW
14	2	終末期にある子どもと家族への看護			講義
15	2	終末期にある子どもと家族への看護			講義GW

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義 演習
対象学年	2学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2年後期
担当教員：大場房代		実務経験のある教員による授業			<input checked="" type="checkbox"/>
小児科病棟・NICUに勤務経験があり、その経験から得た知識や患児、家族との関わりなどを講義にいかしている。					
<p>《科目目標》</p> <p>小児の特徴的な健康障害を取り上げ、発達段階や健康障害に応じたアセスメントの方法がわかり、その対策に合った適切な看護を行うために基礎的な知識を理解でき、技術を学ぶ。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ小児看護学①②③ メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>初回の講義時に、疾患の学習を配布するため事前課題をして参加する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前課題があるので、自己学習をして臨んでください。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ハイリスク新生児と家族への看護 低出生体重児の特徴			講義
2	2	ハイリスク新生児と家族への看護 集中治療室と看護			講義
3	2	急性期・慢性期にある子どもと家族の看護			講義
4	2	川崎病患児の事例から情報収集とアセスメントの視点について理解する 病態理解 協同学習			講義
5	2	川崎病患児の事例から情報収集とアセスメントの視点について理解する 病態理解から看護			講義
6	2	下痢症の乳児の看護			講義
7	2	気管支喘息の事例から情報収集とアセスメントの視点について理解する 病態理解 協同学習			講義
8	2	気管支喘息の事例から情報収集とアセスメントの視点について理解する 病態理解から看護			講義
9	2	ネフローゼ症候群の小児の看護 疾患の理解と看護			講義
10	2	白血病の小児の看護 病態の理解 骨髄穿刺 腰椎穿刺			講義
11	2	検査や治療を受ける子どもと家族への看護			講義
12	2	子どもの安全を守るために必要な看護			講義
13	2	子どもの安全を守るために必要な看護			GW
14	2	新生児人形を用いて身体計測 酸素テントの準備			演習
15	2	モデル人形を用いて心拍数・呼吸数測定 保育器の取り扱い			演習

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	母性看護学概論	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2年前期
担当教員：若杉由香理 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かした講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：母性についてその特徴を捉え、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス／ライツの視点から、社会における母性看護の現状とその役割、今後の課題を理解する。 学習目標：1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。 2. 女性のライフステージ各期の健康問題と看護について理解する。 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。					
《成績評価の方法》 筆記試験、レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシンググラフィカ母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	母性とは			講義
2	2	セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ			講義
3	2	母性看護とは 母性看護に関する法律と制度			講義
4	2	母子保健統計			講義
5	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期・成熟期）			講義
6	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（更年期・老年期）			講義
7	2	母性看護で遭遇する倫理的課題			講義
8	1	母性看護で遭遇する倫理的課題			講義

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：加藤恵美 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
≪科目目標≫ 妊娠・分娩の正常な経過ならびに正常を逸脱した妊娠・分娩の経過とその援助方法を学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、レポート					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫ ① 母性看護学Ⅱ 周産期各論；医歯薬出版株式会社 ② ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護；メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ 妊娠期の事例のアセスメントを実施する					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	妊娠・出産の現状とサポート、妊娠の定義・成立			講義
2	2	妊娠による妊婦・家族への影響、妊婦健診			講義
3	2	妊娠各期の身体的・心理的・社会的変化とその援助① (妊娠初期)			講義
4	2	妊娠各期の身体的・心理的・社会的変化とその援助② (妊娠中期・後期)			講義
5	2	妊娠期の看護技術 (レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定)、妊婦体験			演習
6	2	正常な分娩① (分娩の定義、分娩の 3 要素、分娩機転、分娩経過)			講義
7	2	正常な分娩② (分娩による母体・胎児への影響、産婦の心理的变化)			講義
8	2	正常な分娩③ (家族の心理的变化)、分娩期の援助① (情報収集)			講義
9	2	分娩期の援助②			講義
10	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法① (妊娠期の感染症、妊娠疾患)			講義
11	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法② (妊娠期間の異常、多胎妊娠)			講義
12	2	妊娠期のアセスメント① (事例のアセスメント)			講義
13	2	妊娠期のアセスメント② (事例のアセスメント・保健指導を考える)			講義
14	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法① (分娩 3 要素の異常、胎児機能不全、産科処置・産科手術)			講義
15	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法② (分娩時の損傷、異常出血)			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員：若杉由香理 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：正常な産褥および正常から逸脱した産褥への援助方法を理解する。 学習目標：1. 正常な産褥経過とその援助方法を理解する。 2. 正常を逸脱した産褥とその援助方法を理解する。 3. ウェルネス志向での母性看護過程について理解する。 4. 褥婦への援助に必要な看護技術を修得する。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 6～13回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	生殖器の復古とその援助方法			講義
2	2	全身の回復過程とその援助方法			講義
3	2	母乳分泌のメカニズムと母乳育児支援			講義
4	2	親役割獲得過程とその援助方法			講義
5	2	褥婦への援助に必要な看護技術			演習
6	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント①			講義
7	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント②			講義
8	2	産褥1日目の褥婦のアセスメントと看護①			講義
9	2	産褥1日目の褥婦のアセスメントと看護②			講義
10	2	産褥3日目の褥婦のアセスメントと看護①			講義
11	2	産褥3日目の褥婦のアセスメントと看護②			講義
12	2	産褥5日目の褥婦のアセスメントと看護①			講義
13	2	産褥5日目の褥婦のアセスメントと看護②			講義
14	2	帝王切開術後の褥婦への看護			講義
15	2	母子分離状態・児を亡くした褥婦への看護			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年前期
担当教員：若杉由香理 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：正常な新生児および正常を逸脱した新生児への援助方法を理解する。 学習目標：1. 新生児の特徴と生理的変化およびその援助方法を理解する。 2. 正常を逸脱した新生児とその援助方法を理解する。 3. 新生児への援助に必要な看護技術を修得する。					
《成績評価の方法》 筆記試験、実技試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 5・7・8回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	新生児への清潔の援助技術			講義
2	2	沐浴演習			演習
3	2	出生直後の新生児の看護 胎外生活適応を促進するための看護			講義
4	2	正常を逸脱した新生児とその援助方法			講義
5	2	出生直後の新生児のアセスメントと必要な看護の抽出			講義
6	2	沐浴技術試験			実技試験
7	2	正常な新生児のアセスメントと必要な看護の抽出①			講義
8	1	正常な新生児のアセスメントと必要な看護の抽出②			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護学概論 I	科目区分	専門分野 II	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：水野朋子		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：精神看護の基本となる人間理解を目的として、人格の発達過程、人の心理・行動特性を理解し、健康な生き方とは何かについて考える。</p> <p>学習目標：心の健康とは何かを理解し、心の発達過程について説明できる。心の健康に影響を及ぼす要因と対処法について説明できる。現代家族の特徴、核家族の機能と役割について説明できる。</p>					
《成績評価の方法》筆記試験					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>① ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メデイカ出版</p> <p>② ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版</p> <p>③ パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 照林社</p> <p>④ はじめての精神科看護 メディックメディカ</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら講義に臨めるようにする</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>講義で伝えた内容を学生が理解できているか、確認しながら進める</p> <p>精神科看護とは何かを考え、自分の言葉で人に伝えられるよう、GWなどを取り入れる</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 精神障害についての基本的な考え方			講義
2	2				講義 演習
3	2	2. 人間のこころと行動			講義
4	2				講義 演習
5	2	3. 人格の発達と情緒体験			講義
6	2				講義 演習
7	2				講義 演習
8	2	4. 人生各期の発達課題 ライフサイクルとメンタルヘルス 胎児期から老年期			講義
9	2				講義 演習
10	2				講義 演習
11	2				講義 演習
12	2	5. 現代社会とこころ			講義
13	2				講義
14	2				6. ストレスに対する身体的反応—心身症
15	2	7. 家族とその支援			講義 演習

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	精神看護学概論Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員：河合みゆき 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 病院勤務経験のある教員が担当している。					
≪科目目標≫ 学習目的：精神看護の対象を理解し、患者－看護師関係について学ぶ。また、現代社会の中で起きてくる心の健康問題および精神保健制度について理解する。 学習目標：1. 精神看護における患者－看護師関係について理解する。 2. 社会環境の変化と心の健康問題について理解する。 3. 精神医療・看護の歴史的変遷について理解する。 4. 今日の精神保健制度と今後の課題について理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ② ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ③ パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 ④ はじめての精神科看護, メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ グループワーク					
≪履修に当たっての留意点≫ 対象の生きにくさを対象の立場に立った視点で考えてくことの大切さを知ってほしい。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	社会環境の変化とこころの健康問題 ・家庭における問題			講義
2	2	・学校における問題			演習
3	2	・職場における問題			講義
4	2	精神看護における対象の理解 ・対人関係の持ちにくさ			講義
5	2	・ケアの前提			講義
6	2	・ケアの原則			講義
7	2	・ケアの方法			講義
8	2	・患者－看護師関係でおこること			講義
9	2	・関係をアセスメントする			講義
10	2	・看護師のメンタルヘルス			講義
11	2	精神医療・看護の歴史的変遷			講義
12	2	今日の精神保健福祉制度と今日の課題 ・精神保健福祉法			講義
13	2	・地域における精神保健福祉対策と障害者総合支援法			講義
14	2	・精神障害者の社会復帰と社会参加			講義
15	2	災害時の精神看護を考える			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅰ(疾患)	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(8/30)	開講時期	2年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>精神が障害された人を理解するための基礎的知識として、障害の分類と精神障害の病態・検査・治療について学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>① ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メデイカ出版</p> <p>② ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	認知症、せん妄、てんかん			講義
2	2	統合失調症			講義
3	2	うつ病、躁鬱病、その他の気分障害			講義
4	2	依存、パーソナリティ障害、神経性無食欲症、発達障害、PTSD			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅰ (看護)	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (22/30)	開講時期	2年後期
担当教員：水野朋子		実務経験のある教員による授業			☑
臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：精神科の看護領域で見られる精神病状態にある人への看護について理解する 学習目標：精神が障害された人を理解するための基礎知識を身に付ける 精神障害を持つ人への身体ケアについて学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ① ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メデイカ出版 ② ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版 ③ パーフェクト臨床実習ガイド精神看護 照林社 ④ はじめての精神科看護 メディックメディカ					
《授業外における学習方法》 DVDを各自視聴するなどし、イメージをつけて講義に臨むことができる					
《履修に当たっての留意点》 対象について何故そう考えるのかと学生が考え、考えを共有できるようにする グループワークや発表の機会を作る					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 精神障害を持つ人への主な治療と看護 1) 薬物療法と看護			講義
2	2	2) 精神療法と看護・認知行動療法			講義
3	2	3) リハビリテーションと看護			講義
4	2	2. 精神看護の領域で見られる状態と看護 1) 不安 2) 強迫行為 3) ひきこもり			講義
5	2	4) 攻撃的行為・自傷行為			講義
6	2	3. 精神障害を持つ人への看護			講義
7	2	1) 統合失調症			講義
8	2	2) 躁うつ病(双極性障害) 3) 依存症			講義
9	2	4) パーソナリティ障害 5) てんかん			講義
10	2	4. 精神科看護におけるリスクマネジメント 1) 安全を守る 2) 緊急事態に対処する			講義
11	2	5. 精神看護における身体のケア			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	精神看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義・演習
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3年前期
担当教員：河合みゆき 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 病院勤務経験のある教員が担当している。					
≪科目目標≫ 学習目的：セルフケア理論を用いて精神障害者の生活する力をアセスメントし、看護を過程する方法を学ぶ。 学習目標：セルフケア理論を理解し、事例を通して紙面上での看護を展開する。					
≪成績評価の方法≫ グループワークによるレポート・筆記試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ① ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ② ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ③ パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護，照林社 ④ はじめての精神科看護，メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ グループワーク					
≪履修に当たっての留意点≫ 実習の実際の記録を使用して紙上事例を展開していきながら患者とのかかわりがイメージできるといい。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. セルフケア理論－オレム・アンダーウッド理論			講義
2	2	2. 患者－看護師関係の理論			〃
3	2	3. セルフケア理論を用いた看護過程の展開方法			〃
4	2	4. 統合失調症の事例を用いた看護の展開 ・情報収集（基本的条件づけの要因と精神状態の査定）			紙上事例の展開
5	2	・アセスメント（普遍的セルフケア要件）			〃
6	2	・看護の方向性から看護計画立案			〃
7	2	・全体像の把握と関連図			〃
8	1	患者とのコミュニケーションのポイント：DVD より			講義

2020年度 授業計画（シラバス） 2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護学実習Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	2学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	2年後期
担当教員：平田 めぐみ		実務経験のある教員による授業			☑
成人看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>実習目的：慢性疾患患者やリハビリテーションを必要としている患者、がん治療を受ける患者のケアを通して患者理解を深め、患者の健康状態を把握し、看護展開しながら、患者の特徴と看護の実践方法について学ぶ。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>成人看護の方法Ⅲ・Ⅴの講義資料、テキスト</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習、課題学習を行う。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。</p>					
実習プログラム					
実習期間	2020年10月19日～11月27日				
時間数	合計90時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の身体的健康障害がわかる 2. 疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているか把握できる 3. 患者と援助的関係を築くことができる 4. 患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を行うことができる 5. 患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種の役割を理解できる 6. 実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動することができる 7. 慢性期にある患者リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について述べるができる 8. 看護職者としてふさわしい実習態度を身につける 				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	2学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	2年後期
担当教員：中島加容子		実務経験のある教員による授業			☑
成人看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>実習目的：対象の身体の状態やそれに関わる諸問題を理解し、その時々々の病期や対象の特徴を意識しながら看護実践できる力を養う</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>所定の記録用紙を使用する。各講義で使用した教科書やプリント類および参考書。</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>配置病棟の特徴を理解し、主な臓器の解剖生理と疾患の整理をして臨む。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会である。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨むこと。</p>					
実習プログラム					
実習期間	2021年2月15日～3月5日				
時間数	合計90時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各病期の状態にある対象の心理状態を理解する 2. 対象の病期における特徴を意識して、その時々々の対象の病態とその病態からくる日常生活への影響を理解する 3. 対象の病期やその時々々の状況に応じた看護を展開する 4. 実践を通して学んだことを述べる (各病期における対象の特徴とその看護の明確化・自己成長と課題の明確化) 5. 看護専門職者として望ましい態度を身につける(適切な報告・主体的な学習・人間関係の成立させるための努力・責任のある行動) 				

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護学実習Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年前期
担当教員：松原 裕子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
≪科目目標≫ 1. 周手術期にある対象の全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立へと援助するための基礎的知識・技術・態度を養う 2. ICU・ERICU における対象の特徴と看護の実際を知り、生命の危機的状態にある人を支える看護師の役割について考える。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 ② 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ③ 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習を行う					
≪履修に当たっての留意点≫ 1. 提示された事前課題に積極的に取り組み、実習に活用できるように理解する。 2. 事前学習をもとに、患者の個別性が理解できるよう実習記録に積極的に取り組む。 3. 患者の術後経過に応じ、異常の早期発見・合併症の予防ができるよう必要な看護について考え実践する。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2020 年 5 月 7 日～11 月 27 日 合計 90 時間				
実習内容	1. 周手術期にある患者とその家族の心理状態を理解する 2. 患者の病態および治療方法を理解し看護の方向性を理解する 3. その人らしさを考えながら全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立に向けての支援を実施する 4. グループで学びを共有し、周手術期にある人を支える看護の役割を考える 5. ICU・ERICU での看護の役割を理解する 6. 看護者にとって必要な態度を身につける				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	老年看護学実習Ⅰ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	2学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	2年後期
担当教員：平野 信子		実務経験のある教員による授業			☑
老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>実習目的：地域で暮らしている高齢者との関わりを通して、その人らしい生活を支援していくための知識・技術・態度を学ぶ。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する。</p>					
《使用教材（教科書）及び参考図書》					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習・課題学習を行う。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。</p>					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2020年9月28日～11月6日 合計90時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体面・心理面・社会面の特徴を把握し、必要な援助を考え、実践する 2. 高齢者に合わせた健康体操・遊びリテーションを計画・実践する 3. 各施設の機能と役割を理解するとともに、高齢者看護のあり方を考察する 4. 認知症高齢者を理解し、認知症ケアについて考察する 5. 看護専門職者として望ましい態度を身につける 				

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	3年前期
担当教員：井上 亜希		実務経験のある教員による授業			☑
老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>実習目的：入院中の高齢者を対象とし、安全・安楽で安心できる療養環境について考え、もてる力(強み)ができる限り引き出されるような看護を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>生活機能からみた老年看護過程 医学書院 系統看護学講座:老年看護学 医学書院 他</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習、課題学習を行う。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。</p>					
実習プログラム					
実習期間	2020年5月7日～7月22日				
時間数	合計90時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の原因、誘因について、個人因子、生活環境から捉える。 2. 疾病の症状・状態、および治療の理解をして、観察内容や治療処置の必要性につなげて考える。 3. 6つの生活行動に対してアセスメントし、日常生活援助の必要性を見いだす。 4. 患者の状況に適した目標設定をする。 5. 日々の状況の変化に応じて、状態を観察・アセスメントし、報告できる。 6. 症状緩和・快の刺激：安心・安全・安楽を意識して、ケアを提供できる。 7. 自立支援(予防)：予測される合併症予防、廃用予防ができる。 8. 自立支援：できるところに着目(プラス思考)して、そこに働きかけ、それを維持または拡大する。 9. 関わり方：理解力や意思伝達能力、心理状況を考えエンパワメントを意識して、コミュニケーションをする。 10. 尊重(自己実現・尊厳)：患者の意思・自己決定を尊重しつつ、医療者としての提案をしていく。そのバランスを養う。 11. 看護実践を振り返り、その結果がどうであったかをまとめる。 12. 老年看護で大切にしたいことを明らかにする。 13. 患者、学生間、医療スタッフ等と協調しながら実習できる。 14. 医療者として適切な責任ある行動、倫理的配慮ができる。 15. 指導者または教員に必要な報告・連絡・相談が適宜できる。 				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護学実習	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	3年全期
担当教員：大場 房代 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 小児看護業務に携わった教員が教授している。					
≪科目目標≫ 1. 健康に生活している乳幼児を理解する 2. 健康障害をもち入院という危機状態に陥った患児及び家族の心理を理解し、患児成長発達過程を最大限支持しながら、早期に回復過程をとるような援助のあり方を学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫ プロジェクト学習を取り入れています。自ら実習に対して目標をもち、課題を解決するために何を準備したらよいかを考えて臨んでください。事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 子どもと実際に関わることで、親子関係や子どもの成長発達の実際を見て学ぶ機会です。臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2020年5月7日～12月18日 合計90時間				
実習内容	1. 健康な乳幼児の成長と発達に応じた援助 2. 低出生体重児の特徴とNICUでの看護の実際を知る 3. 受け持ち患児とその家族の状況を理解し、良い関係を保つ 4. 受け持ち患児の健康障害を理解し、成長発達と状態に応じた看護を実践する 5. 小児看護に必要な技術を実践する 6. 小児の安全を守るために必要な看護を実践する				

2020 年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護学実習	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年全期
担当教員：若杉由香理 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 周産期看護業務に携わった教員及び臨床助産師が教授している。					
≪科目目標≫ 正常な妊娠・分娩・産褥および新生児期の対象に適した看護援助を学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2020 年 5 月 7 日～12 月 18 日 合計 90 時間				
実習内容	1. 妊婦の特徴と看護を理解する 2. 産婦の特徴および分娩の経過と看護を理解する 3. 褥婦の特徴および産褥の経過を理解し、看護を実践する 4. 新生児の特徴を理解し、看護を実践する 5. 母性看護における看護師の役割を理解する				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	精神看護学実習	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位（時間）	2（90）	開講時期	3年前期
担当教員：河合みゆき 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 病院実務経験のある教員が担当している。					
≪科目目標≫ 実習目的：精神に障害をもつ対象をあるがままに理解し、かかわりを通して患者－看護師関係を構築する過程を体験する。また、対象に応じた看護ができる基本的能力と対象を尊重する態度を養う。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 授業で使用した教科書・資料等					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全に臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2020年5月7日～7月24日 合計90時間				
実習内容	1. 精神に障害をもつ人の治療環境を理解する。 2. 精神に障害をもつ人との患者－看護師関係における治療的なかかわりを、体験を通して学ぶ。 3. 精神に障害をもつ人を理解し、必要な看護を考察する。 4. 精神保健福祉活動における看護の役割りと社会復帰の現状について理解する。				

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	在宅看護概論	科目区分	統合分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2年前期
担当教員：木下 典子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅看護業務に携わった教員が教授している					
≪科目目標≫ 学習目的：地域保健医療福祉活動を知り、その中での在宅看護活動の機能と役割を理解するとともに在宅ケアの視点を理解する 学習目標：1. 看護をめぐる諸情勢の変化と在宅ケアニーズを理解する 2. 在宅看護の目的と特徴、対象者を理解する 3. 在宅看護の制度、社会資源、ケアマネジメントや連携を理解する 4. 地域保健医療福祉活動を理解する 5. 訪問看護制度の基本を理解できる					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ① ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ② ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	在宅看護のイメージ			講義・演習
2	2	在宅看護の背景、基盤、地域療養を支える在宅看護の役割・機能			講義
3	2	在宅看護を展開するための基本理念、在宅看護における倫理			講義・演習
4	2	地域保健医療福祉活動の現状			講義・演習
5	2	在宅看護の対象者、在宅療養の成立要件			講義
6	2	在宅療養の場における家族のとらえ方、家族への支援			講義・演習
7	2	地域包括ケアシステム、地域包括支援センター			講義
8	2	療養の場の移行に伴う看護、他職種連携、ケアマネジメント			講義
9	2	社会資源の活用、医療保険制度			講義・演習
10	2	介護保険制度			講義・演習
11	2				
12	2	障害者総合支援法、難病法			講義
13	2	訪問看護の特徴			講義
14	2	訪問看護ステーション、初回訪問			講義
15	2	療養者の理解（難病・小児）			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	在宅看護の方法 I	科目区分	統合分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：羽賀紀子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関で実務経験のある教員が講義を行っている					
<科目目標> 学習目的：疾病や障害があってもその人らしい生活を支援できるように、在宅看護過程の特徴、安全と危機管理、日常生活援助におけるアセスメントや技術を学ぶ 学習目標：1. 在宅看護過程の特徴を理解する 2. 在宅におけるリスクマネジメント、災害対策を理解する 3. 在宅における日常生活援助技術、ストーマ管理、褥瘡管理を理解する					
<成績評価の方法> 筆記試験					
<使用教材(教科書)及び参考図書> ① ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ② ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版 ③ 強みと弱みからみた在宅看護過程 医学書院					
<授業外における学習方法> 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する。					
<履修に当たっての留意点>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	在宅看護過程の特徴、情報収集項目			講義
2	2	情報整理とアセスメント			講義・演習
3	2	看護課題の考え方、目標設定と評価の視点、記録			講義・演習
4	2	在宅看護における安全と危機管理			講義
5	2	日常生活における安全管理			講義
6	2	感染予防、災害対策			講義
7	2	生活を支える基本的な技術(コミュニケーション、環境整備、生活リハビリ)			講義
8	2	日常生活を支える看護技術(食生活のアセスメントと援助)			講義・演習
9	2	日常生活を支える看護技術(排泄のアセスメントと援助)			講義・演習
10	2	日常生活を支える看護技術(清潔のアセスメントと援助)			講義・演習
11	2	日常生活を支える看護技術(呼吸のアセスメントと援助)			講義・演習
12	2	日常生活を支える看護技術(移動のアセスメントと援助)			講義・演習
13	2	療養を支える看護技術(ストーマ管理)			講義
14	2	療養を支える看護技術(褥瘡予防と管理)			講義
15	2	療養を支える看護技術(足病変のケア)			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	在宅看護の方法Ⅱ	科目区分	統合分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員：木下 典子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 学習目的：在宅における医療的援助の基本的なアセスメントや援助の方法を学ぶ 学習目標：1. 在宅における医療処置にともなう生活行動支援を理解する。 2. 在宅で対象となる主な疾患を理解し、療養者・家族への援助を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・課題					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ① ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ② ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医療ケアの原理原則			講義
2	2	排尿ケア・膀胱留置カテーテル			講義
3	2	膀胱留置カテーテル演習			演習
4	2				
5	2	排痰ケア			講義
6	2	気管カニューレ管理			講義
7	2	在宅酸素療法			講義
8	2	在宅人工呼吸療法 (NPPV・TPPV)			講義
9	2	薬物療法・インスリン自己注射管理			講義
10	2	がん外来化学療法・疼痛管理			講義
11	2	在宅経管栄養法			講義
12	2	在宅中心静脈栄養法			講義
13	2	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法患者の看護			外部講師
14	2	訪問看護の実際			外部講師
15	2	ターミナルケア			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	在宅看護の方法Ⅲ	科目区分	統合分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位（時間）	1（15）	開講時期	2年後期
担当教員：羽賀紀子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関で実務経験のある教員が講義を行っている					
≪科目目標≫ 学習目的：さまざまな療養者と家族、取り巻く環境や状況に応じた訪問看護のDVDを視聴し、既存の知識と結びつけ、在宅看護の実践を学ぶ 学習目標：1. 療養者と家族の希望に着目し、背景や経過から生活上の課題を検討する 2. 対象の特性に応じたアセスメントと、今後を予測した看護介入を検討する 3. 療養者と家族の状況に対して活用できる社会資源を理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ① ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ② ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版 ③ 強みと弱みからみた在宅看護過程 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読し、理解を深める					
≪履修に当たっての留意点≫ DVDを視聴しワークをする方法で進めます。事前学習をして受講してください。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	事例① 糖尿病の自己管理が必要な高齢女性 独居 初回訪問			講義・演習
2	2	事例② 事故により中途障害者（頸髄損傷）となった成人男性			講義・演習
3	2	事例③ 慢性呼吸器疾患でHOTと夜間NPPV使用の高齢者			講義・演習
4	2	事例①～③のまとめ			講義・演習
5	2	事例④ 地域で生活する重症心身障害児			講義・演習
6	2	事例⑤ 在宅で終末期を迎える療養者と家族			講義・演習
7	2	事例⑥ 在宅での生活継続を希望する精神疾患をもつ療養者			講義・演習
8	1	事例④～⑥のまとめ			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合 I (看護管理・医療安全)	科目区分	統合分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	3 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>医療を取り巻く社会環境の変化と、そこにおける看護の位置づけを学ぶと共に、チーム医療及び多職種との協働の中でメンバーシップ、リーダーシップを理解する。 また医療事故が起こる過程とそれを防止する対策、医療メディエーションを理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座：統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座：統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医療安全を学ぶ意義 事故防止の考え方など			講義
2	2	診療補助の事故防止について			講義
3	2	診療補助の事故防止について			講義
4	2	コンマリクトマネジメント 医療メディエーション			講義
5	2	医療安全とコミュニケーション			講義
6	2	看護とマネジメント 看護管理とは チーム医療について			講義
7	2	看護サービスマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり			講義
8	2	人材のマネジメント 施設、物品のマネジメント ME, 薬剤			講義
9	2	組織とマネジメント リーダーシップ 組織と個人の関係づくり			講義
10	2	看護制度について 看護サービスと経済の仕組み、看護政策			講義

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合 I (看護倫理)	科目区分	統合分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	3 年後期
担当教員：後藤 ゆかり		実務経験のある教員による授業		<input checked="" type="checkbox"/>	
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 学習目標：1. 看護における倫理の必要性について学ぶ。 2. 看護倫理に関する基本的知識を理解する。 3. 事例分析を通して、適切で倫理的な意思決定と行動について学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ レポート「隣地実習における看護体験の中から、倫理的な問題について考える」					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ 系統看護学講座：専門分野〔I〕 看護学概論 医学書院					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	授業ガイダンス 映像から見る看護倫理			講義・演習
2	2	患者権利宣言、倫理とは、倫理的行動とは、看護者の倫理綱領			講義・演習
3	2	看護倫理の実践とは 事例分析①			講義・演習
4	2	事例分析②			講義・演習
5	2	事例分析のまとめ			講義・演習

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合Ⅱ (国際・災害看護)	科目区分	統合分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	3 年後期
担当教員：片倉 貴子		実務経験のある教員による授業		<input checked="" type="checkbox"/>	
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<<科目目標>> 1. 国際的にどのような健康問題が課題になっているかを理解し、国際看護の基本理念を理解し、その方法を考える。 2. 災害が生活に及ぼす影響を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験・レポート					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 系統看護学講座：統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 世界で起こっている保健・医療問題に関してポートフォリオ学習を夏休みの課題として行う					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	国際看護学の定義・目的 国際協力・政府機関の紹介			講義
2	2	世界で起こっている健康問題の現状について			講義・演習
3	2	災害医療の基礎知識			講義
4	2	災害医療の特徴			講義
5	1	災害看護の基礎知識			講義
6	2	災害サイクルの応じた活動現場別の災害看護			講義
7	2	実習に災害が起こったらどうする！？ ～シミュレーション学習を通して～			講義・演習
8	2	災害とこころのケア			講義

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	看護研究演習	科目区分	統合分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	3年全期
担当教員：後藤 ゆかり 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護研究実績の経験をもとに、看護研究の意義から研究の発表までを教授している。					
《科目目標》 実践した看護の中から課題を見出し、ケーススタディとしてまとめる。この過程を通して、文献の活用、倫理的配慮、科学的・論理的なものの見方や考え方を学び、自己の看護観を深め、研究の基礎能力を身につける。					
《成績評価の方法》 論文・発表に対する看護研究演習評価表（ルーブリック）に基づいて評価する					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 國澤尚子編：はじめて学ぶケーススタディ，総合医学社					
《授業外における学習方法》 4月中に5回までの講義が終わり、7月末までに計画書の作成、夏季休業中に論文の作成を行っていきます。計画的に取り組んでいきましょう。					
《履修に当たっての留意点》 論文作成に主体的に取り組むこと、発表の場に積極的に参加することを期待しています。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 看護研究の意義と目的 2. 研究の種類及び方法			講義
2	2	3. 看護研究のプロセス			講義・演習
3	2	4. 研究計画書の作成			講義・演習
4	2	5. 文献検索について			講義・演習
5	2	論文・抄録の作成、発表、評価など			講義・演習
6	2	6. 研究の実際 1) ケーススタディの完成 2) 抄録の作成 3) スライドによる発表準備			講義・演習
7	2	4) ケーススタディの発表・講評			演習
8	2				
9	2				
10	2				
11	2				
12	2				
13	2				
14	2				
15	2				

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合演習Ⅱ	科目区分	統合分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年期
担当教員：加藤 利江 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>					
看護師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し、講義を行っている。					
《科目目標》 対象の健康状態を理解し、対象に適した根拠ある看護を考え、提案する。チームメンバーとの情報の共有・協力・調整に努め、チームの力を実感する。セルフコーチングや評価(価値づける)力を意識し、自己学習力を養う。学びを俯瞰し、自己の成長に気づく。					
《成績評価の方法》 課題の評価表(ループリック)に基づき評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 特になし					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 クリアファイル(A4 40ポケット)1冊(できれば横入タイプ) B5 ノート 1冊を準備する。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	総合実習Ⅱオリエンテーション 事例選択とその理由			講義
2	2	対象の病態アセスメント。検査・治療の理解、RCを見出す			講義・個人ワーク
3	2	事例の全体像を整理し、看護上の課題を見出す			講義・個人ワーク
4	2	対象の看護の方向性を見出し、個々でビジョン・ゴールを立てる			講義・個人ワーク
5	2	事例の説明。メンバーと情報共有し、チームでビジョン・ゴールを立てる			講義・演習
6	2	プレゼンテーションの説明。担当教員からアドバイスを受ける			講義・演習
7	2	担当教員と方向性やロールプレイの内容を確認する。			講義・演習
8	2	プレゼンテーションの準備・練習			講義・演習
9	2	プレゼンテーションの役割決定、準備、リハーサル。			講義・演習
10	2	プレゼンテーション			演習
11	2	質疑応答・講評			
12	2	プレゼンテーション			演習
13	2	質疑応答・講評			
14	2	プレゼンテーションの振り返り。凝縮ポートフォリオ作成の説明			チームワーク・講義
15	2	凝縮ポートフォリオの発表会と評価。成長報告書の説明。			講義・演習

2020年度 授業計画（シラバス）

科目名	在宅看護論実習	科目区分	統合分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	3年全期
担当教員：木下 典子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 実習目的：1. 地域における保健・医療・福祉サービスの現状を知り、連携や協働のあり方、看護の役割を学ぶ。 2. 地域で生活しながら療養する人々と家族が直面している健康上・生活上の課題に対し、療養者と家族が主体的に持てる力を発揮し、その人がその人らしく生活できるような支援について学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 授業で使用した教科書、資料等					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2020年5月7日～11月26日 合計90時間				
実習内容	1. 地域で生活する人々の健康回復・保持・増進、疾病予防のための地域保健活動を理解する 2. 地域住民が、住み慣れた地域でその人らしい生活を送るための地域包括ケアについて考察する 3. 在宅で生活する療養者と家族を生活の主体者として理解する 4. 健康障害を持ちながら在宅生活する療養者への支援を理解する 5. 在宅介護の維持・向上に必要な家族に対する生活支援を理解する 6. 療養者・家族を支える社会資源や関連職種との連携について理解する 7. 訪問看護のあり方を考察する 8. 看護者としての適切な態度を身につける				

2020年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合実習	科目区分	統合分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年後期
担当教員：片倉 貴子 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟での看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 複数患者の情報を収集し、優先順位を考えながらメンバーと協力し計画的に援助することを学ぶ。チーム内でのリーダーシップやメンバーシップ、役割遂行や連携を学ぶ。 複数患者に必要な知識・技術・態度を学ぶ。今まで経験できなかった夜間の患者の療養生活状況と必要な援助について学ぶ。 今までの実習をとおして、自分の看護技術を評価し強化する。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ 系統看護学講座：統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院など					
≪授業外における学習方法≫ 実習する病棟の特徴を理解し、疾患・看護の事前学習を行う					
≪履修に当たっての留意点≫ チームで取り組む実習であるため、グループでコミュニケーションを密に行い、情報の共有を図っていく。					
実習プログラム					
実習期間	2020年10月19日～12月18日				
時間数	合計90時間				
実習内容	1. チームで複数患者を受け持ち、患者の1日の生活リズムを考えながら、病態、治療を踏まえ、看護計画を立案し、計画的に援助ができる。 2. 学生チーム内で役割を果たしながら、看護が実施できる。 1) メンバーとしての役割を理解する。 2) チーム内で連携を取りながら、患者への援助を検討・評価できる。 3. 夜間帯の患者援助の実際を理解する。 1) 夜間の業務と看護の優先度を知る。 2) 夜間の安全面への配慮を知る 3) チーム間や他のスタッフとの連携を知る。 4. 同行看護師の実践から複数患者の看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。 1) 複数患者を把握するための情報とその収集方法や援助の優先順位のつけ方について理解する。 5. 自分の看護技術を評価し、強化する。 6. 実習での学びから自分の考える複数患者への看護実践について述べる。 7. 看護師として望ましい態度を身につける。				